

第四十一條 地質課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 地質ノ調査ニ關スル事項
- 二 地質ト土工ノ關係鑛床及有用鑛物ノ驗定ニ關スル事項
- 三 地質圖及其說明書報文類ノ刊行ニ關スル事項

第四十二條 土性課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 土性ノ調査ニ關スル事項
- 二 土性ト植物ノ關係試驗ニ關スル事項
- 三 鑛肥ノ調査ニ關スル事項
- 四 土性圖及ハ說明書報文類ノ刊行ニ關スル事項

第四十三條 分析課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 地質調査ニ必要ナル材料ノ分析試驗ニ關スル事項
- 二 工業及鑛業用材料ノ分析試驗ニ關スル事項
- 三 明治二十五年勅令第六十三號ニ依リ官民ノ依頼ニ應ヌル分析ニ關スル事項

第四十四條 地形課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 地質及土性調査ニ必要ノ地形測量ニ關スル事項
- 二 地質圖及土性圖ノ原圖トナルヘキ實測地形圖編纂ニ關スル事項
- 三 實測地形圖ノ刊行ニ關スル事項

●臨時林野下戻處分調査ニ關スル職員ノ件 明治三十二年四月 勅令第三百五十一號

改正 ●明治三十三年四月 勅令第三百四十三號 ●明治三十四年四月 勅令第六十六號 ●明治三十五年三月 勅令第三百一十一號

朕臨時林野下戻處分調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 臨時林野下戻處分ノ調査ヲ爲サシムル爲農商務省ニ左ノ職員ヲ置キ山林局ニ屬セシム

山林局事務官	奏任	山林局鑑定官	奏任
山林局屬	判任	山林局技手	

第二條 山林局事務官ハ專任七人山林局鑑定官ハ專任二人山林局屬及技手ハ通シテ專任九十五人ヲ以テ定員トス

第三條 山林局鑑定官ノ官等ハ高等官六等以下トシ其ノ年俸ハ千圓以下トス

第四條 農商務大臣ハ事務ノ必要ニ依リ第一條ノ職員ヲ大林區署ニ勤務セシムルコトヲ得

● 林野下戻審査委員規則

明治三十三年五月
農商務省訓令第二十六號

省中一般 大林區署

林野下戻審査委員規則左ノ通相定ム

但明治三十一年六月農商務省訓令第十二號及同年十二月農商務省訓令第四十一號ハ之ヲ廢止ス

林野下戻審査委員規則

- 第一條 農商務省山林局ニ林野下戻審査委員ヲ置シ
委員ハ五名以上トシ高等官ヨリ選定シテ之ニ充ツ
- 第二條 委員ハ山林局調査課ノ提出ニ係ル林野下戻申請事件ノ成案ヲ審査ス
- 第三條 林野下戻申請事件ノ成案ハ委員三名以上ノ審査ヲ經ルヲ要ス
委員ニ於テ異見アルトキハ之ヲ具申スヘシ
- 第四條 山林局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ委員會ヲ開シコトヲ得
委員ハ山林局長ニ委員會ノ開會ヲ求ムルコトヲ得
- 第五條 議長ハ山林局長ヲ以テ之ニ充ツ局長事故アルトキハ委員中ヨリ其代理者ヲ指命ス
委員會ニハ委員半数以上ノ出席ヲ要ス
委員會ノ評決ハ多數決ニ依ル此ノ場合ト雖モ少數意見者ハ別ニ其意見ヲ具申スルコトヲ得
- 第六條 委員ハ申請事件ニ關シ秘密ヲ恪守スヘシ

臨時國有林野特別經營ニ關スル職員ノ件

明治三十三年九月
勅令第三百八十五號

改正

明治三十四年四月 勅令第三十九號
明治三十五年三月 勅令第百十二號

朕臨時國有林野ノ特別經營ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
國有林野ノ處分、實測、施業案ノ編製、造林及森林買上ニ係ル特別經營ノ爲農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ
置キ山林局及大林區署ニ分屬セシム

- 山林局書記官 專任二人 奏任
- 山林局監督官 專任四人 奏任
- 山林局監督官補 專任十六人 奏任
- 營林技師 專任六十四人
- 山林局書記 專任八百六十人 判任
- 營林技手

附則

本令ハ明治三十三年十月十日ヨリ之ヲ施行ス
林野整理局官制ハ之ヲ廢止ス

● 林野整理審査會規則

明治三十二年四月
勅令第三百七十九號

朕林野整理審査會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

林野整理審査會規則

- 第一條 林野整理審査會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ國有林野ノ特別經營ニ關スル重要ノ事項ニ就キ農商務大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申ス
- 第二條 林野整理審査會ハ會長一人委員十一人ヲ以テ組織ス
委員ハ農商務省高等官四人、內務省高等官二人、陸軍省、海軍省、大藏省、文部省及逓信省高等官各一人ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外五人以内ノ臨時委員ヲ命スルコトヲ得
- 第四條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第五條 會長委員及臨時委員ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第五條 會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ農商務大臣ニ具申ス
- 第六條 會長事故アルトキハ委員中上席ノ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
- 第七條 林野整理審査會ニ幹事二人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
- 第八條 林野整理審査會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
書記ハ林野整理局到任官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第九條 林野整理審査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

●農商工高等會議規則

明治三十年六月
勅令第百八十八號

朕農商工高等會議規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農商工高等會議規則

- 第一條 農商工高等會議ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付農商務大臣ノ諮問ニ應シ意見ヲ開申ス
- 第二條 農商工高等會議ハ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付關係各省大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第三條 農商工高等會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 農商工高等會議ハ議長副議長各一人及ヒ議員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲メ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時議員ヲ命スルコトヲ得
- 第六條 議長副議長議員及臨時議員ハ官吏又ハ農商工ニ關スル學識若クハ經驗アル者ノ中ニ就キ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第七條 議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ農商務大臣ニ具申ス
- 第八條 議長事故アルトキハ副議長ヲシテ事務ヲ代理セシム
- 第九條 農商工高等會議ニ幹事二人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十條 幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
- 第十一條 議長副議長議員及幹事ニハ一箇年三百圓以内臨時議員ニハ事件ノ輕重ニ應シ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得
- 第十二條 農商工高等會議ニ書記ヲ置キ議長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 書記ハ農商務省判任官又ハ其ノ他ノ者ニ就キ之ヲ命ス

第十二條 書記ニハ事務ノ繁閑ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十三條 農商務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ議員又ハ其ノ他ノ者ヲシテ農商工業ニ關スル諸般ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

附則

第十四條 從前ノ議長副議長議員臨時議員及幹事ハ別ニ辭令ヲ用サズ本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

●馬匹去勢法施行準備ニ關スル臨時職員ノ件 明治三十五年三月勅令第三百十三號

朕馬匹去勢法施行準備ニ關スル臨時職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

馬匹去勢法施行準備ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ農務局ニ屬セシム

- 農務局事務官 專任一人 奏任
- 農務局技師 專任四人
- 農務局屬 專任四人 判任
- 農務局技手 專任六人

附則 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臨時工場調査ニ關スル職員ノ件 明治三十三年四月
勅令第百四十九號

改正 明治三十四年四月
勅令第四十三號

朕臨時工場調査ニ關スル職員ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工場及職工ニ關スル事項ノ調査ヲ掌理セシムル爲メ農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

書記官 專任一人

技師 專任一人

屬 專任三人

●臨時油田調査ニ關スル職員ノ件 明治三十三年六月
勅令第二百八十一號

改正 ●明治三十四年四月
勅令第四百四號 ●明治三十五年三月
勅令第四百十號

朕臨時油田調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

油田ノ調査ヲ爲サシムル爲農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ地質調査所ニ屬セシム

技師 專任四人

技手 專任十四人

屬 專任二人

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●第二節 林區署

●林區署官制

明治三十年六月
勅令第百八十六號

改

●明治三十年十二月
勅令第百五十三號

●明治三十三年三月
勅令第七十一號

●明治三十三年十一月
勅令第四百七號

●明治三十五年三月
勅令第百〇三號

正

●明治三十一年十月
勅令第百八十三號

●明治三十三年九月
勅令第百八十七號

●明治三十四年四月
勅令第百三十八號

朕林區署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

林區署官制

第一條 大林区署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 國有林野ノ保管、利用、處分、測量及境界査定ニ關スル事項
- 二 造林及伐木事業ニ關スル事項
- 三 施業案編製並土地及林野買上ニ關スル事項
- 四 部分林ニ關スル事項
- 五 國有林野及立木竹ノ下戻ニ關スル事項

第二條 大林区署ニ左ノ職員ヲ置ク

林務官

林務官補

營林主事

書記

營林主事補

森林監守

第三條 各大林区署長ハ一人林務官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌

第四條 林務官ハ奏任トシ各大林区署ヲ通シテ專任三十二人ヲ以テ定員トス大林区署ニ分屬シ署務ニ

從事ス
 第五條 林務官補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ專任七十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス
 第六條 營林主事ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ專任三百二十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ營林事務及森林調査ニ從事ス
 第七條 書記ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ專任百三十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 第八條 營林主事補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ七百八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事シ營林事務及森林調査ヲ分擔ス
 第九條 森林監守ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ六百五十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事ス
 第十條 大林區署ノ事務ヲ分掌スル爲メ管轄内須要ノ地ニ小林區署ヲ置ク
 各小林區署長ハ一人營林主事ヲ以テ之ニ充テ大林區署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理ス
 第十一條 (削除)
 第十二條 大林區署ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル
 第十三條 小林區署ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル
 附則
 第十四條 明治二十六年勅令第四百四十七號大小林區署官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
 (別表)

大林區署名稱位置管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
青森大林區署	陸奥國 青森	青森縣
秋田大林區署	羽後國 秋田	秋田縣
巖手大林區署	陸中國 巖手	巖手縣
宮城大林區署	陸前國 仙臺	宮城縣 山形縣
福島大林區署	岩代國 福島	福島縣
東京大林區署	武藏國 東京	東京府 栃木縣 茨城縣 群馬縣 埼玉縣
長野大林區署	信濃國 長野	千葉縣 神奈川縣 靜岡縣 山梨縣
石川大林區署	加賀國 金澤	新潟縣 長野縣
大阪大林區署	攝津國 大阪	石川縣 富山縣 福井縣 岐阜縣
岡山大林區署	備前國 岡山	奈良縣 京都府 滋賀縣 三重縣 愛知縣
廣島大林區署	備前國 岡山	岡山縣 兵庫縣 鳥取縣
愛媛大林區署	安藝國 廣島	廣島縣 島根縣 山口縣
伊豫國 松山	愛媛縣 香川縣	

高知大林區署	土佐國	高知	高知縣	德島縣
福岡大林區署	筑前國	福岡	福岡縣	佐賀縣
熊本大林區署	肥後國	熊本	熊本縣	大分縣
鹿兒島大林區署	薩摩國	鹿兒島	鹿兒島縣	宮崎縣

● 林區署事務章程

明治三十三年十月
農商務省勅令第三十六號

改正

● 明治三十五年四月
勅令第四號

林 區 署

林區署事務章程左ノ通定ム
林區署事務章程

第一章 大林區署

- 第一條 大林區署長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ法律命令ノ執行及主管事務ノ整理ニ付其ノ責ニ任ス
- 第二條 大林區署ニ林務課、林業課、林務課及主計課ヲ置ク大林區署長ニ於テ特別ノ分課ヲ爲サントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 林務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國有林野及產物ノ保管、委託、貸下並處分ニ關スル事項
 - 二 民有ノ土地、森林、原野及產物ノ買上並交換ニ關スル事項
 - 三 部分林ニ關スル事項
 - 四 國有林野ノ納入及組換ニ關スル事項
 - 五 國有林野ノ存廢區分ニ關スル事項
 - 六 不要存廢國有林野ノ處分調査ニ關スル事項
 - 七 小林區署及保護區ノ存廢並其ノ位置區域ニ關スル事項
 - 八 林產物品ニ關スル事項

- 九 國有林野ノ被審ニ關スル事項
 - 十 國有林野ノ蓄帳ニ關スル事項
 - 十一 國有林野及立木竹ノ下戻ニ關スル事項
- 第四條 林業課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 毎年度事業豫定案ニ關スル事項
 - 二 國有林野ノ測量及境界査定ニ關スル事項
 - 三 國有林野ノ施業案ニ關スル事項
 - 四 保安林調査ニ關スル事項
 - 五 造林及伐木事業ニ關スル事項
 - 六 林業ニ關スル講習事項
 - 七 林業ノ試験ニ關スル事項
- 第五條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 署長印及署印ノ保管ニ關スル事項
 - 二 機密ニ關スル事項
 - 三 職員ニ關スル事項
 - 四 公文書類ノ接受、發送、淨寫、編纂及保管ニ關スル事項
 - 五 統計ニ關スル事項
 - 六 圖書ノ刊行及保管ニ關スル事項
 - 七 常宿直ニ關スル事項
 - 八 各課文書ノ點查ニ關スル事項

- 九 他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 第六條 主計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 大林區署所屬歲入歲出ノ豫算、決算、出納其ノ他會計ニ關スル事項
 - 二 用地、建物及物品ニ關スル事項
 - 三 應舎及給仕小使ノ取締ニ關スル事項
- 第七條 大林區署長ハ職員ニ關スル左記各號ニ就テハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 一 管内ヲ旅行シ又ハ部下ノ官吏ニ管内ノ旅行ヲ命スルコト
 - 二 部下ノ官吏ニ歸省、看護、墓參、轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコト
 - 三 月俸十五圓又ハ日給五十錢ヲ超エサル雇員ノ採用解職ノコト
 - 四 課長及課員ノ分擔命免ノコト
 - 五 小林區署長ヲ命免シ及小林區署員ノ在勤ヲ命免スルコト
- 第八條 大林區署長ハ特別ノ規程アルモノ及左記各號ノ外其ノ主管ニ係ル事項ニ就テハ之ヲ專決スルコトヲ得
- 一 毎年度事業豫定案確定並變更ノコト
 - 但シ類別各項内金額ノ流用及造林費又ハ官行事業費ノ剩餘金ヲ以テ各其ノ事業ヲ施行スルモノハ此ノ限ニアラズ
 - 二 國有林野ノ存廢區分ノコト
 - 三 面積一町步ヲ超エ若ハ見積價格金三百圓ヲ超ユル不要存置國有林野ノ隨意契約ニ依ル賣拂ノコト
 - 四 既定事業豫定案以外ノ主產物處分ノコト

- 五 但シ公用又ハ公益事業ニ係ル見積價格金五百圓ヲ超エサルモノハ此ノ限ニアラス
本條第三號以外ニ係ル國有林野ノ賣拂、交換、讓與又ハ他ノ官有地ニ組換ノコト
但シ道路、河川、堤塘、溝渠、溜池ノ敷地ニ組換又ハ公共ノ用ニ供スル墓地、火葬場、汚穢物埋却
場及斃牛馬捨場ノ新設又ハ取壊ノ爲國有原野面積一町歩以下ノ賣拂ハ此ノ限ニアラス
- 六 土地、森林、原野又ハ立木竹買上ノコト
- 七 社寺保管林又ハ市町村委託林ノ設定及解除ノコト
- 八 賣拂ノ豫約アル國有林野ノ繼年期及事業方法變更ノコト
- 九 部分林ノ設定及解除ノコト
- 十 國有林野無料貸渡ノコト
但シ繼年期及官廳又ハ公共用ニ供スル場合ニシテ面積五町歩ヲ超エサルモノハ此ノ限ニアラ
ス
- 十一 國有林野ノ面積十町歩ヲ超ユルモノ、年期貸渡若ハ十箇年ヲ超ユル年期貸渡ノコト
但シ繼年期ノ場合及面積十町歩ヲ超エサル公用又ハ公益事業用若ハ植樹、家屋敷地ハ此ノ
限ニアラス
- 十二 主產物年期賣拂ノコト
但シ立竹ニシテ年期五箇年ヲ超エサルトキハ此ノ限ニアラス
- 十三 小林區署及保護區ノ廢置變更並小林區署ノ位置變更ノコト
但シ同一市町村内ニ於ケル位置變更ハ此ノ限ニアラス
- 十四 決定セシ國有林野ノ境界改定ノコト
- 十五 訴訟提起ノコト

但シ公訴附帶ノ私訴又ハ公訴ノ判決確定ニ起因スル民事及未納金ニ關スル訴訟其ノ他緊急
ノ場合ニ於ケル訴訟ハ此ノ限ニアラス

- 十六 一應金額五百圓以上ノ支出ヲ要スル隨意契約締結ノコト
 - 十七 謝金二百圓ヲ超ユル辯護士雇入ノコト
 - 十八 一箇金額百圓ヲ超ユル不用物件賣拂ノコト
 - 十九 金額五十圓ヲ超ユル手當又ハ謝金ヲ要スル事務囑託ノコト
 - 二十 賞與、療治料及死傷手當給與ノコト
 - 二十一 經同ノ上締結シタル契約ノ變更及解除ノコト
但シ契約ノ目的及金額ニ異動ナキ變更ハ此ノ限ニアラス
- 第九條 大林區署長ハ左記ノ場合ニ於テ前條第四號ノ例ニ依ラズ之ヲ處分スルコトヲ得
但シ第二號以下產物ノ特賣又ハ讓與ニシテ金額五百圓ヲ超ユルモノハ此ノ限ニアラス
- 一 見積價格金百圓ヲ超エサル主產物
 - 二 竹及部分木
 - 三 燒木、枯木、損木、轉倒木、危險木、障礙木、盜伐木、誤伐木、根株、末木、枝條、林產物品及棄損木
 - 四 造林事業施行上斫伐ヲ要スル立木
 - 五 試驗又ハ林況調査ノ爲斫伐ヲ要スル立木
 - 六 檢證ノ爲斫伐ヲ要スル立木
 - 七 境界調査又ハ測量ノ爲斫伐ヲ要スル立木
 - 八 林野ヲ他ノ官有地ニ組換ニ付斫伐ヲ要スル立木
 - 九 林業付帶ノ爲斫伐ヲ要スル立木

十 水火災ノ防禦又ハ軍事用ノ爲斫伐ヲ要スル立木
 十一 受託者又ハ保管者ニ委託又ハ保管ニ係ル林野ノ主産物ヲ採收セシムルコト
 第十條 大林區署長ハ第七條第四號第五號ノ課長及小林區署長ノ命免第八條第十三號但書ノ位置變更、處務ニ關スル規程ヲ制定シ若ハ改正ヲナシタルトキ及重大ナル林野ノ被害事項ハ其ノ都度報告スヘシ

第二章 小林區署

第十一條 小林區署長ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 林野ノ斫伐造林及利用ニ關スル事項
 - 二 林野ノ保護ニ關スル事項
 - 三 林野ノ調査ニ關スル事項
- 第十二條 小林區署長ハ臨時緊急ノ場合ニ於テ大林區署長ニ報告ノ上管外ニ出張シ又ハ署員ヲ出張セシムルコトヲ得

但シ大林區署管外ニ出張シ又ハ出張セシメタルトキハ大林區署長ノ追認ヲ受クヘシ

第十三條 小林區署長ハ署員ノ勤惰及其身上ニ關シ大林區署長ニ報告スヘシ

第十四條 小林區署長ハ大林區署長ノ指揮ヲ受ケ事業豫定案ヲ編製シ及之ヲ執行スヘシ

第十五條 小林區署長豫定事業内ノ産物ヲ公賣セントスルトキハ之ヲ廣告スヘシ

但シ季節アル副産物ニ係ルモノ、外公賣廣告十日前其旨ヲ大林區署ニ報告スヘシ

第十六條 左ノ各號ニ該當スルモノハ小林區署長限リ處分スルコトヲ得

但シ處分後五日以内ニ大林區署ニ報告スヘシ

- 一 水火災ノ防禦又ハ軍事用ノ爲木竹斫伐ノコト

- 二 境界調査、森林測量、陸地測量部測量及道路鐵道新設測量ノ支障並其敷地上ノ木竹斫伐ノコト
- 三 電線電柱ノ支障木斫伐ノコト
- 四 檢證ノ爲木竹斫伐ノコト
- 五 障害木竹危險木竹斫伐ノコト
- 六 物件搬出延期ノコト
- 七 林産物買受人又ハ其雇人ニシテ契約ニ違背シタル場合ニ於テ入林若ハ物件搬出ヲ停止スルコト
但シ經伺ノ暇ナキトキニ限ル
- 八 公賣物件ノ轉賣讓與ヲ認可スルコト
- 九 拂受人借地人名義換認可ノコト
- 十 一時貸地ノコト
- 十一 豫算内林野地五箇年以内繼年期貸渡ノコト
- 十二 部分林手入ノコト
- 十三 豫算内ノ副産物特賣ノコト
- 十四 金額十圓ヲ超エサル豫算外副産物特賣ノコト
- 第十七條 特別ノ規定アル場合ヲ除キ凡テ願書届等ハ小林區署ニ受理スヘシ
- 第十八條 書式ノ例規ニ違背シタルモノ及管轄邊ニ係ルモノハ小林區署長限リ却下スルコトヲ得

第三章 附則

第十九條 本令ハ明治三十三年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 林區署長職務章程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●大林區署長森林監督事務取扱心得

明治三十一年六月
農商務省訓令第十號

大 林 區 署

大林區署長森林監督事務取扱心得左ノ通定ム

大林區署長森林監督事務取扱心得

第一條 大林區署長ハ森林法第三條第七條第二十一條乃至第二十三條第五十五條ノ施行ヲ要スルモノト認メ又ハ第四條第五條第二十三條第二十四條ノ指定ニ違背シタル者ヲ發見シタルトキハ其旨ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

第二條 大林區署長ハ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認ムルトキハ森林法施行細則第二條及第三條ニ依リ其ノ旨ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

第三條 大林區署長ハ左ノ事項ニ對シ意見アルトキハ農商務大臣ニ稟申スヘシ

- 一 保安林ニ對スル營林保護ノ指定使用收益ノ制限

- 二 國土保安ニ關係アル林野ノ開墾
- 三 公有林、社寺林、私有林ノ營林方法

第四條 大林區署長ハ國土保安上保安林トシテ民有地ノ買上ヲ必要ト認メタルトキハ府縣知事ニ通知スヘシ

● 小林區監督規程

明治三十一年六月
農商務省勅令第十一號

大 林 區 署

小林區監督規程左ノ通定ム

小林區監督規程

- 第一條 大林區署長ハ此規程ニ依リ管轄内小林區業務ノ監督ヲナスヘシ
- 第二條 大林區署長ハ林務官、林務官補ヲ監督員トシ業務ノ監督ヲ分掌セシムヘシ
但營林主事又ハ書記ヲ以テ監督員心得トナスコトヲ得
- 第三條 大林區署長ハ監督事務施行ノ爲メ管轄内ヲ區分シ監督區ヲ設クヘシ
- 第四條 大林區署長ハ監督事務上必要ト認ムルトキハ其細則ヲ定ムルコトヲ得
- 第五條 小林區監督ヲ分テ事務檢閲、林野實查及職員服務ノ三トス
- 第六條 大林區署長ハ毎年度一回以上監督員ヲ派遣シテ事務檢閲及林野實查ヲ施行セシムヘシ
- 第七條 事務檢閲ニ於テハ小林區署備付ノ諸帳簿類、書類、官舎、極印、器具、機械ヲ檢閲スヘシ
- 第八條 林野實查ニ於テハ伐採跡地、造林地、苗圃、伐木又ハ林產物製造事業場、林產物貯藏場、事業豫定案編成ノ場所、被害ノ場所及豫約抛下地、社寺土地委託林等ヲ實地ニ就キ踏查スヘシ
- 第九條 監督員ハ檢閲又ハ實查ノ後左ノ各號ニ就テハ大林區署長ニ復命書ヲ差出スヘシ
 - 一 成規定例ニ違背セシ事項
 - 二 事業上ノ不成績ニ係ル事項
 - 三 事務上ノ不整理ニ係ル事項
 - 四 官舎物品類ノ不取締ニ係ル事項

五 大林區署長ノ特ニ復命ヲ命シタル事項

第十條 監督員ハ必要ト認ムルトキハ主任官吏ヨリ始末書ヲ徴シ之ヲ復命書ニ添付スヘシ

第十一條 監督員ハ常ニ職員ノ服務ニ注意シ且隨時森林手簿ヲ檢閲スヘシ

但森林手簿ノ檢閲ヨリシタルトキハ檢印ヲ捺スヘシ

第十二條 大林區署長ハ小林區署長交代事務引繼及林產物公賣、造林事業實行ノ際ニハ可成監督員ヲシテ立會セシムヘシ

第十三條 第二條第三條第四條ノ場合ニ於テハ其都度報告スヘシ

● 第三節 鑛山

● 鑛山監督署官制

明治二十九年八月
勅令第二百八十三號

改正

● 明治三十一年二月
勅令第二十九號

● 明治三十三年二月
勅令第二十六號

● 明治三十四年四月
勅令第四十號

● 明治三十五年三月
勅令第百〇四號

朕鑛山監督署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鑛山監督署官制

第一條 鑛山監督署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鑛山監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 鑛山監督署ニ左ノ職員ヲ置ク

鑛山監督官 鑛山監督官補 書記

第三條 鑛山監督署長ハ毎署一人監督官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 鑛山監督官ハ奏任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ二十四人ヲ以テ定員トス鑛山監督署ニ分屬シテ

署務ニ從事ス

第五條 鑛山監督官補ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ百十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務

ニ從事ス

第六條 書記ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ十六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條 鑛山監督署ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

(別表)

鑛山監督署名稱位置管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京鑛山監督署	武藏國東京	東京府 神奈川縣 埼玉縣 群馬縣 茨城縣 栃木縣 長野縣 山梨縣 富山縣 石川縣 福井縣 愛知縣
仙臺鑛山監督署	陸前國仙臺	宮城縣 福島縣 青森縣 山形縣 秋田縣
大阪鑛山監督署	攝津國大阪	京都府 大阪府 滋賀縣 廣島縣 兵庫縣 奈良縣 和歌山縣 福井縣 香川縣 岡山縣 愛媛縣 高知縣 德島縣 石川縣 大分縣 熊本縣
福岡鑛山監督署	筑前國福岡	長崎縣 大分縣 山口縣 福岡縣 熊本縣
札幌鑛山監督署	石狩國札幌	北海道

一五〇二

●鑛山監督署長權限

明治二十五年四月
農商務省訓令第八號

改正

●明治三十一年十月
訓令第二十二號

●明治三十五年四月
訓令第五號

鑛山監督署

鑛山監督署長權限左ノ通相定ム

- 第一條 鑛山監督署長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ法律命令ノ執行及主管事務ノ整理ニ付凡テ其責ニ任ス
- 第二條 鑛山監督署長ハ管内ヲ巡視シ及ヒ部下ノ官吏ニ管内ノ巡廻出張ヲ命スルコトヲ得
- 第三條 鑛山監督署長ハ部下官吏ノ歸省看護醫藥參事轉地療養願ヲ許可シ及ヒ除服出仕ヲ命スルコトヲ得
- 第四條 鑛山監督署長ハ月俸十五圓又ハ日給五給錢以下ノ傭員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 第五條 鑛山監督署長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
- 第六條 農商務大臣ニ經伺ヲ要スヘキ事項ハ總テ鑛山局長ヲ經由スヘシ

● 廣島鑛山官制

明治二十六年十月
勅令第四百四十號

改正

● 明治三十一年十月
勅令第二百九十四號

朕廣島鑛山官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

廣島鑛山官制

第一條 廣島鑛山ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ廣島鑛山ノ事業經營ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 廣島鑛山ニ左ノ職員ヲ置ク

管理長 理事

技師 技手

第三條 管理長ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ廣島鑛山一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 理事ハ管理長ノ指揮監督ヲ受ケ文書會計ノ事ヲ掌ル

第五條 管理長ハ廣島縣知事、理事ハ廣島縣書記官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 技師ハ一人ヲ以テ定員トス管理長ノ指揮監督ヲ受ケ工務ヲ管理ス

第七條 技手ハ十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ受ケ工務ニ從事ス

附則

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●第四節 製鐵所

●製鐵所官制 明治三十二年六月 勅令第三百七號

改正

●明治三十三年三月 勅令第七十八號

●明治三十四年八月 勅令第百五十七號

●明治三十六年五月 勅令第九十一號

朕製鐵所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

製鐵所官制

第一條 製鐵所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鋼鐵製造ノ事ヲ掌ル

第二條 製鐵所ニ左ノ職員ヲ置ク

- | | | |
|-----|--------|----------|
| 長官 | 一人 | 勅任 |
| 書記官 | 專任二人 | 奏任 |
| 事務官 | 專任三人 | 奏任 |
| 技師 | 專任三十人 | 内一人ハ勅任トス |
| 書記 | 專任六十四人 | 判任 |
| 技手 | 專任百人 | |

第三條 長官ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ總理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

長官ハ奏任官ノ進退ハ之ヲ農商務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第四條 書記官ハ長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ關スル事務ヲ掌ル

技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
 第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ従事ス
 第八條 製鐵所ニ左ノ諸部ヲ置ク

- 工務部
- 製鐵部
- 製鋼部
- 經理部

各部ニ於ケル事務ノ分掌ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九條 農商務大臣ハ所中ニ課ヲ置クコトヲ得

第十條 製鐵所ニ技術長ヲ置キ勅任技師ヲ以テ之ニ充ツ

技術長ハ長官ノ命ヲ承ケ技術官ヲ指揮監督シ技術ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十一條 各部ニ部長ヲ置キ工務部製鐵部製鋼部製品部ニ在テハ技師經理部ニ在テハ書記官ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ上官ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第十二條 農商務大臣ハ事業上ノ須要ニ依リ製鐵所ニ商議委員ヲ設クルコトヲ得

出張所所屬ノ事務ハ農商務大臣之ヲ定ム

● 製鐵所處務規程 明治三十三年 八月六日官報

改正 明治三十四年 八月二十一日

製鐵所處務規程

- 第一條 製鐵所官制ニ定ムル所ノ各部ノ外製鐵所ニ文書課及鑑査課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム
- 第二條 工務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 本所諸工事及出張所起業ノ計畫ニ關スル事項
 - 二 諸營造物ノ築造、器具機械ノ製作並修理及其條件ニ關スル事項
 - 三 土木、測量及其條件ニ關スル事項
 - 四 諸機械ノ運轉、貨物ノ運輸及電氣ニ關スル事項
 - 第三條 製鐵部ニ於テハ銑鐵爐材及骸炭製造ノ事ヲ掌ル
 - 第四條 製鋼部ニ於テハ鋼鐵製造ノ事ヲ掌ル
 - 第五條 製品部ニ於テハ製品製造ノ事ヲ掌ル
 - 第六條 經理部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 文書ノ接受、配付及發送其他諸報告ニ關スル事項
 - 二 公文書及圖書類ノ編纂、刊行並保存ニ關スル事項
 - 三 經費及諸收入ノ豫算、決算並會計ニ關スル事項
 - 四 土地、建物、原料及製品其他諸物件ノ買賣貸借並其契約ニ關スル事項
 - 五 各部課ノ主掌ニ屬セザル事項

- 第七條 文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 機密ニ屬スル事項
 - 二 諸規則制定ニ關スル事項
 - 三 所員ノ進退身分ニ關スル事項
 - 四 長官ノ官印及所印ノ管守ニ關スル事項
 - 五 儀式並褒賞ニ關スル事項
 - 六 翻譯ニ關スル事項
 - 第八條 鑑査課ニ於テハ原料、製品及諸工事鑑査ノ事務ヲ掌ル
 - 第九條 文書課及鑑査課ニ課長ヲ置キ文書課長ハ書記官又ハ事務官、鑑査課長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ
課長ハ上官ノ命ヲ承ケ課員ヲ監督シ課務ヲ掌理ス
 - 第十條 長官事故アルトキハ他ノ高等官ヲシテ事務ヲ代理セシムルコトヲ得
 - 第十一條 長官ハ他ノ高等官ニ主管事務ノ一部ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ處辨セシムルコトヲ得
 - 第十二條 長官ハ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復シ及公告ヲナスコトヲ得
 - 第十三條 外國人ニ對シ義務ヲ負擔スル文書ハ凡テ長官ノ名ヲ以テ往復スヘシ
 - 第十四條 長官ハ事務整理ノ爲メ處務細則ヲ設クルコトヲ得
 - 第十五條 長官ハ判任官以下ノ所員ニ賞與スルコトヲ得
 - 第十六條 長官ハ所員ニ内地出張ヲ命スルコトヲ得

●製鐵所及出張所名稱位置

名稱	位置
製鐵所	福岡縣下筑前國遠賀郡八幡村(明治三十年二月農商務省告示第三號)
同出張所	農商務省內 (明治三十年五月同告示第十五號)
同赤谷出張所	新潟縣越後國北蒲原郡赤谷村(明治三十二年八月同告示第七十五號)
同二瀬出張所	福岡縣筑前國嘉穂郡二瀬村 (明治三十二年十二月同告示第九十八號)

第五節 農事試驗場

農事試驗場官制 明治二十六年四月 勅令第十八號

改正

- 明治二十九年三月 勅令第五十二號
- 明治三十一年十月 勅令第二百八十五號
- 明治三十二年三月 勅令第八十八號
- 明治三十五年三月 勅令第五十五號
- 明治三十六年三月 勅令第三十九號

朕農事試驗場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農事試驗場官制

第一條 農事試驗場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 農産ノ増殖改良ニ關スル試驗
- 二 巡回講話
- 三 土壤、肥料、農産物、農産製造品其ノ他農業上ニ關係アル物料ノ分析鑑定

第二條 農事試驗場ニ左ノ職員ヲ置シ

技師 技手 書記

第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル專任技師ハ三十二人ヲ以テ定員トス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス專任技手ハ四十人ヲ以テ定員トス

第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス專任書記ハ八人ヲ以テ定員トス

第七條 農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ農事試驗支場ヲ置キ農事試驗場職員ヲ派シ本場ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第八條 農事試驗場及支場ノ名稱位置及管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

二一〇二

●農事試驗場處務規程

明治三十五年七月
農商務省訓令第十四號

農事試驗場處務規程左ノ通改正ス

農事試驗場

農事試驗場處務規程

- 第一條 農事試驗場ニ種藝部、農藝化學部、昆蟲部、病理部、煙草部、園藝部、報告部、庶務部ヲ置シ
- 第二條 種藝部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 農作物及牧草ノ種類選擇、耕耘、肥培ニ關スル事項
 - 二 種苗ノ鑑定ニ關スル事項
 - 三 收穫及貯藏ニ關スル事項
 - 四 農産製造ニ關スル事項
 - 五 農具ノ改良ニ關スル事項
 - 六 耕地ノ改良ニ關スル事項
 - 七 灌溉、排水ニ關スル事項
 - 八 家畜、家禽ノ飼育肥膩ニ關スル事項
 - 九 氣候、土壤、肥料ト農作物トノ關係事項
 - 十 種苗配布ニ關スル事項
- 第三條 農藝化學部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 農業ニ關係アル物料ノ分析ニ關スル事項
 - 二 依賴ニ係ル分析鑑定ニ關スル事項
 - 三 土壤、肥料飼料農作物ノ化學的研究ニ關スル事項

- 四 植物生理、農藝細菌ノ化學的研究ニ關スル事項
- 五 有毒物ト植物トノ關係事項
- 六 農産製造法ニ關スル事項

第四條 昆蟲部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 害虫、益虫、有害動物ノ發生經過及分類ニ關スル事項
- 二 害虫及有害動物ノ豫防驅除ニ關スル事項
- 三 驅除用藥品機械等ノ研究鑑定並ニ設計ニ關スル事項
- 四 益虫ノ應用ニ關スル事項
- 五 害虫、益虫、有害動物ト氣候トノ關係事項
- 六 害虫、益虫、有害動物ノ地理上分布ニ關スル事項

第五條 病理部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 農作物病害ノ原因研究ニ關スル事項
- 二 農作物病害ノ豫防治療ニ關スル事項
- 三 殺菌用藥品、機械等ノ研究、鑑定並ニ設計ニ關スル事項
- 四 有益菌類ノ應用ニ關スル事項
- 五 農作物病害ト氣候、土壤、肥料トノ關係事項

第六條 煙草部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 内外煙草ノ種類選擇、耕耘、肥培ニ關スル事項
- 二 煙草ノ品質ト氣候、土質、肥料トノ關係事項
- 三 收穫、乾燥、貯藏ニ關スル事項

四 撰別及調製ニ關スル事項

- 五 醱酵ニ關スル事項
- 六 葉卷煙草、紙卷煙草ノ試製ニ關スル事項
- 七 傳習ニ關スル事項

第七條 園藝部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 内外果樹、蔬菜ノ種類選擇、繁殖栽培ニ關スル事項
- 二 種苗ノ鑑定ニ關スル事項
- 三 收穫、貯藏、製造ニ關スル事項
- 四 促成栽培ニ關スル事項
- 五 種苗ノ配布ニ關スル事項

第八條 以上ノ事項ノ外左ニ掲グル事項ハ各其ノ主務部ニ於テ之ヲ處理ス

- 一 質問應答ニ關スル事項
- 二 依托試験ニ關スル事項
- 三 講評ニ關スル事項
- 四 調査ニ關スル事項

第九條 報告部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 試験成績、報告ノ編纂、刊行ニ關スル事項
- 二 試験成績、報告等ノ保管ニ關スル事項

第十條 庶務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 場員ノ進退身分ニ關スル事項

- 二 公文書類ノ接受及發送ニ關スル事項
 - 三 會計事務ニ關スル事項
 - 四 守衛、給仕、小使、定夫等ノ採罷、取締ニ關スル事項
 - 五 他部ノ主掌ニ屬セサル事項
- 第十一條 農事試驗場長ハ官制ノ定ムル所ニ隨ヒ主管事務ノ整理ニ付其ノ責任ス
- 第十二條 支場長ハ場長ノ指揮監督ヲ受ケ支場全般ノ事務ヲ處理スヘシ
- 第十三條 場長又ハ支場長事故アルトキハ所部ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
- 第十四條 場長又ハ支場長ハ所部官吏ノ歸省、看護、墓參、轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得
- 第十五條 場長ハ月俸二十圓又ハ日給五十錢ヲ超エサル僱員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 第十六條 場長ハ事務整理ノ爲メ經伺ノ上場中職務細則ヲ設クルコトヲ得
- 第十七條 場長ハ試驗成績ヲ審査編纂シ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ臨時緊要ト認ムル試驗成績ハ時々報告スヘシ
- 第十八條 場長又ハ支場長ハ其ノ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
- 第十九條 農談會、講習會、品評會、共進會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ場員ノ出張巡回ヲ申出ツルモノアルトキハ本場ニ於テハ場長之ヲ許否シ支場ニ於テハ其ノ出張ノ日數十日ヲ超ユルモノハ場長ノ指揮ヲ受ケ其ノ他ハ支場長之ヲ許否シ其ノ旨ヲ場長ニ報告スヘシ場長又ハ支場長ノ出張ヲ要スル場合ニ於テ日數十日以内ナルトキハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ農商務大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ得

- 第二十條 場長ハ場務ノ爲メ場員ノ出張巡回ヲ命スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但シ至急ヲ要シ經伺ノ暇ナキ場合ニ於テハ場長之ヲ命シ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第二十一條 分析鑑定ノ求ニ應シ其ノ結果ヲ依頼者ニ通知スルトキハ場長又ハ支場長ハ各其ノ擔任者ト共ニ通知書ニ署名スヘシ
- 第二十二條 本場及支場ニ於テハ見習生ヲ入場セシムルコトヲ得
見習生ノ費用ハ自辨タルヘシ
見習生ノ入場ニ關スル規定及其ノ人員ハ場長之ヲ定ムヘシ
- 第二十三條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

左ノ所ニ農事試驗場ヲ設ク
東京府北豐島郡瀧ノ川村大字西ヶ原

●農事試驗場設置ノ件

明治二十六年四月
農商務省告示第二號

●農事試驗支場名稱位置 明治二十六年六月
農商務省告示第四號

改正 ●明治二十九年六月
告示第十二號 ●明治三十六年三月
告示第四十九號

名稱位置

農事試驗場畿內支場
農事試驗場九州支場
農事試驗場陸羽支場

大阪府志紀郡柏原村大字柏原
熊本縣託麻郡出水村大字國府
秋田縣仙北郡花館村(明治二十九年七月告示第十八號ニテ設置)

●農事試驗場本支場管轄區域

明治三十六年三月
農商務省告示第四十九號

明治三十六年四月一日ヨリ農事試驗場本支場ノ管轄區域ヲ左ノ通改正シ農事試驗場支場中東奧支場、北陸支場、山陽支場、四國支場、東海支場及山陰支場ノ六支場ヲ廢止ス

農事試驗場本支場管轄區域

九州支場管轄區域	陸羽支場管轄區域	畿内支場管轄區域	本場管轄區域	東京府	神奈川縣	埼玉縣	群馬縣
熊本縣	山形縣	和歌山縣	千葉縣	茨城縣	栃木縣	山梨縣	群馬縣
長崎縣	宮城縣	京都府	長野縣	新潟縣	福井縣	石川縣	群馬縣
宮崎縣	秋田縣	滋賀縣	富山縣	三重縣	愛知縣	靜岡縣	群馬縣
鹿兒島縣	福島縣	大阪府	岐阜縣	愛知縣	兵庫縣	奈良縣	群馬縣
大分縣	香取縣	岡山縣	三重縣	愛知縣	廣島縣	山口縣	群馬縣
佐賀縣	鳥取縣	大分縣	三重縣	愛知縣	廣島縣	山口縣	群馬縣
沖繩縣	青森縣	高知縣	三重縣	愛知縣	廣島縣	山口縣	群馬縣

第六節 種馬牧場及種馬所

●種馬牧場及種馬所官制 明治二十九年四月
勅令第三百三十九號

改正 ●明治三十一年十月
勅令第二百九十一號 ●明治三十二年三月
勅令第八十七號 ●明治三十三年三月
勅令第七十三號 ●明治三十五年三月
勅令第八號

朕種馬牧場及種馬所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

種馬牧場及種馬所官制

第一條 種馬牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 馬匹ノ改良、蕃殖、育成及其ノ試験ニ關スル事項

二 種馬ノ補充及配布ニ關スル事項

第二條 各種馬牧場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長

技師

技手

書記

第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス

第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 種馬所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 種馬ノ飼養管理ニ關スル事項
- 二 牝牡馬配合ニ關スル事項
- 三 民有種馬ノ監督ニ關スル事項
- 四 種付牝馬ノ產駒成績ニ關スル事項
- 第八條 各種馬所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師
技手
書記

- 第九條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス
- 第十條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル
- 第十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第十二條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第十三條 各種馬牧場及各種馬所ヲ通シテ專任技師十一人專任技手二十八人專任書記十二人ヲ以テ定員トス
- 第十四條 種馬牧場ハ二箇所以内トシ種馬所ハ十六箇所以内トス
- 第十五條 種馬牧場及種馬所ノ名稱位置並種馬所ノ管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

● 種馬牧場及種馬所處務規程 明治二十九年六月 農商務省訓令第十七號

改正 ● 明治三十三年六月 訓令第二十六號

農 務 局
種 馬 牧 場
種 馬 所

種馬牧場及種馬所處務規程左ノ通相定ム

種馬牧場及種馬所處務規程

- 第一條 種馬牧場長及種馬所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス
- 第二條 種馬牧場長及種馬所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
- 第三條 種馬牧場長及種馬所長ハ事務整理ノ爲メ經伺ノ上處務細則ヲ設クルコトヲ得
- 第四條 種馬牧場長及種馬所長ハ判任官以下ノ階級者罷職參轉地移發願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得
- 第五條 種馬牧場長及種馬所長ハ其主管業務ノ順序方法及其分任擔當ヲ定メ農務局長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第六條 種馬牧場長及種馬所長ハ月俸拾五圓又ハ日給五拾錢ヲ超ヘサル備員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 第七條 種馬牧場長及種馬所長ハ其ノ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第八條 馬匹共進會品評會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ種馬牧場員又ハ種馬所員ノ出張巡廻ヲ申出ツル者アルトキハ種馬牧場長又ハ種馬所長ハ之ヲ許否スルコトヲ得

種馬牧場長又ハ種馬所長ノ出張ヲ要スル場合ニ於テ日數十日以内ナルトキハ農務局長ノ承認ヲ經歸任ノ後其旨ヲ農商務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 前條ニ於ケル場合ヲ除クノ外種馬牧場又ハ種馬所業務ノ爲メ場員又ハ所員ノ出張巡廻ヲ要スルトキハ種馬牧場長及種馬所長ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 種馬牧場長及種馬所長ハ毎年四月中前年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ係ル場員及所員ノ出張巡廻ノ日數度數場所及理由ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十一條 種馬牧場長及種馬所長ハ毎年二月中前年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ係ル主管業務ノ成績ヲ審査編纂シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

●種馬牧場及種馬所ノ名稱位置

明治二十九年五月
農商務省告示第十號

種馬牧場及種馬所ノ名稱位置左ノ通相定ム

名稱	位置
一九州種馬牧場	鹿兒島縣桑原郡牧園村
一熊本種馬所	熊本縣球磨郡川村
一奥羽種馬牧場	青森縣上北郡七戸村(明治二十九年六月告示第十四號ニテ設置)
一宮城種馬所	宮城縣玉造郡大崎村(同上)
一巖手種馬所	巖手縣巖手郡瀧澤村(同上)
一秋田種馬所	秋田縣仙北郡神宮寺村(明治三十年七月告示第二十三號ニテ設置)
一福島種馬所	福島縣西白河郡西郷村大字小田倉原(明治三十二年七月告示第六十七號ニテ設置)
一宮崎種馬所	宮崎縣西諸縣郡小林村(明治三十二年九月告示第八十一號ニテ設置)
一島根種馬所	島根縣仁多郡八川村(明治三十三年五月告示第四十號ニテ設置)
一愛知種馬所	愛知縣北設樂郡段嶺村字段戸(明治三十四年七月告示第九十一號ニテ設置)

●種馬所種付管轄區域
明治三十五年一月
 農商務省告示第十三號

明治三十五年種馬所種付管轄區域左ノ通相定ム

種馬所種付管轄區域

所名

巖手種馬所	巖手縣	青森縣	
熊本種馬所	熊本縣	大分縣	長崎縣
宮城種馬所	宮城縣	山形縣	
秋田種馬所	秋田縣		
福島種馬所	福島縣	茨城縣	栃木縣
宮崎種馬所	宮崎縣	鹿兒島縣	
島根種馬所	島根縣	鳥取縣	廣島縣
愛知種馬所	愛知縣	長野縣	岐阜縣

第七節 種牛牧場

種牛牧場官制 明治三十三年三月
勅令第八十八號

朕種牛牧場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

種牛牧場官制

第一條 種牛牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 牛種ノ改良、蕃殖、育成及其ノ試験ニ關スル事項

二 種牛ノ配付及普及ニ關スル事項

三 配布種牛ノ監督ニ關スル事項

四 種付牝牛ノ産額成績ニ關スル事項

第二條 種牛牧場ニ左ノ職員ヲ置シ

場長 一人

技師 專任一人

技手 專任三人

書記 專任二人

第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス

第六條 書記ハ判任官以上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 種牛牧場ノ名稱位置ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 種牛牧場處務規程

明治三十三年六月
農商務省訓令第二十三號

種牛牧場處務規程左ノ通相定ム

農務局種牛牧場

種牛牧場處務規程

- 第一條 種牛牧場長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス
- 第二條 種牛牧場長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
- 第三條 種牛牧場長ハ事務整理ノ爲メ經伺ノ上處務細則ヲ設クルコトヲ得
- 第四條 種牛牧場長ハ判任官以下ノ歸省看護慕養轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得
- 第五條 種牛牧場長ハ其主管業務ノ順序方法及其分任擔當ヲ定メ農務局長ノ承認ヲ受シヘシ
- 第六條 種牛牧場長ハ月俸十五圓又ハ日給五十錢ヲ超ヘサル傭員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 第七條 種牛牧場長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
- 第八條 畜産共進會品評會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ種牛牧場員ノ出張巡回ヲ申出ツル者アルトキハ種牛牧場長ハ之ヲ許否スルコトヲ得
- 種牛牧場長ノ出張ヲ要スル場合ニ於テ日數十日以内ナルトキハ農務局長ノ承認ヲ經歸任ノ後其旨ヲ農商務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受シヘシ
- 第九條 種牛牧場長ハ毎年四月中前年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ係ル場員ノ出張巡回ノ日數度數場所及理由ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第十條 種牛牧場長ハ其主管業務ノ成績ヲ審査編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第十一條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

●種牛牧場名稱位置

明治三十三年五月
農商務省告示第三十八號

廣島縣下ニ種牛牧場ヲ設置ス其名稱位置左ノ通相定ム

名稱

位置

七塚原種牛牧場

廣島縣比婆郡山内東村

◎第八節 生絲検査所

●生絲検査所官制 明治二十八年七月 勅令第九十三號

改正
●明治三十年四月 勅令第八十七號
●明治三十二年一月 勅令第七號
●明治三十四年四月 勅令第二十八號
●明治三十五年三月 勅令第七號
●明治三十三年五月 勅令第二十五十一號
●明治三十八年十月 勅令第二十八十六號

朕生絲検査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ヒシム

生絲検査所官制

第一條 生絲検査所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 專任六人
- 技師 專任十七人
- 技手 專任六人
- 書記 專任六人

第二條 所長ハ一人奏任トス技師ヲシテ之ヲ兼シム農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第三條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第四條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス

第五條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

● 生絲検査所處務規程

明治二十九年二月
農商務省訓令第三號

改正

● 明治三十一年十一月
訓令第二十九號

● 明治三十三年六月
訓令第二十八號

● 明治三十五年十月
訓令第二十一號

● 明治三十六年六月
訓令第五號

生絲検査所處務規程左ノ通相定ム

生絲検査所處務規程

- 第一條 各生絲検査所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ法律命令ノ執行及主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス
- 第二條 各生絲検査所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
- 第三條 各生絲検査所長ハ事務整理ノ爲メ經伺ノ上所中處務細則ヲ設クルコトヲ得
- 第四條 各生絲検査所長ハ判任官以下ノ歸省看護寡妻轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得
- 第五條 生絲検査所長ハ月俸二十圓又ハ日給八十錢ヲ超ヘサル雇員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 第六條 各生絲検査所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
- 第七條 製絲ノ事業ニ關シ旅費ヲ支辨シ所員ノ出張巡回ヲ申出ル者アルトキハ所長ニ於テ許否シ所長巡回ヲ要スル場合ニ於テハ日數十日以内ナルトキハ其旨農商務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ認可ヲ請フヘシ
- 第八條 生絲検査所長ハ所務ノ爲メ所員ノ出張巡回ヲ命スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但至急ヲ要シ經伺ノ暇ナキ場合ニ於テハ所長之ヲ命シ其旨農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第九條 各生絲検査所長ハ検査請求者ニ交付スヘキ生絲檢定證ニ署名スヘシ

第十條 生絲検査所長ハ毎年一回検査成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
但臨時必要ト認ムル検査成績ハ時々報告スヘシ
第十一條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經申スヘシ

● 生絲検査所名稱位置

明治二十九年六月
農商務省告示第十七號

名稱

位置

横濱生絲検査所

神奈川県横濱市本町一丁目一番地

● 生絲検査所臨時商議員規程

明治二十九年一月
勅令第一號

朕生絲検査所臨時商議員規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

生絲検査所臨時商議員規程

第一條 生絲検査所ニ臨時商議員十名以内ヲ置クコトヲ得

臨時商議員ハ横濱若クハ神戸ニ於テ現ニ生絲ノ貿易ニ從事シ經驗アル者ノ中ヨリ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第二條 臨時商議員ハ農商務大臣ノ諮詢ニ應ジ生絲ノ検査及之ヲ施行ニ必要ナル事項ヲ審議スルモノトス

◎第九節 蠶業講習所

●蠶業講習所官制 明治三十二年三月
勅令第八十九號

改正 ●明治三十五年三月
勅令第百〇六號

朕蠶業講習所官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

蠶業講習所官制

第一條 蠶業講習所ハ二箇所トス農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 蠶絲業ニ關スル講習
- 二 蠶絲業ニ關スル試験及調査
- 三 巡回講話
- 四 蠶種配布
- 五 質問應答

第二條 蠶業講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 技師
- 舎監 技手
- 書記

第三條 所長ハ一人技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條 舎監ハ技師技手又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ講習生ノ取締ヲ掌ル

- 第六條 技手ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ニ従事ス
- 第七條 書記ハ判任トシ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第八條 蠶業講習所ヲ通シテ專任技師十一人專任技手十七人專任書記七人ヲ以テ定員トス
- 第九條 蠶業講習所ノ位置及名稱ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

● 蠶業講習所處務規程 明治三十五年
四月四日官報

- 蠶業講習所處務規程
- 第一條 蠶業講習所ニ養蠶製絲ノ二部及報告庶務ノ二課ヲ置ク
- 第二條 養蠶部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 養蠶業ニ關スル學理及實地ノ講習
 - 一 養蠶業ニ關スル試験及調査
 - 一 養蠶業ニ關スル巡回講話
 - 一 蠶種配布
 - 一 養蠶業ニ關スル質問應答
- 第三條 製絲部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 製絲業ニ關スル學理及實地ノ講習
 - 一 製絲業ニ關スル試験及調査
 - 一 製絲業ニ關スル巡回講話
 - 一 製絲業ニ關スル質問應答
- 第四條 報告課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 養蠶製絲ニ關スル諸報告ノ編纂
 - 一 圖書報告書類ノ保管
 - 一 養蠶製絲ニ關スル統計
- 第五條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 公文書類及成案文書ノ接受發送ノコト
- 二 所員進退出張等ニ關スルコト
- 三 其他蠶製絲ノ二部及報告課ニ屬セサルノ事項
- 第六條 蠶業講習所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ處理ニ付其實ニ任ス
- 第七條 蠶業講習所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
- 第八條 蠶業講習所長ハ部下ノ官吏ノ歸省看護墓參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得
- 第九條 蠶業講習所長ハ月俸貳拾圓又ハ日給五拾錢ヲ超エサル傭員ノ採用解雇ハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 第十條 蠶業講習所長ハ事務處理ノ爲メ經伺ノ上所中處務細則及講習規程ヲ設クルコトヲ得
- 第十一條 蠶業講習所長ハ傳習生ノ募集人員ヲ定メ農商務大臣ノ承認ヲ請フヘシ
- 第十二條 蠶業講習所長ハ試驗項目及其擔任者ヲ定メ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第十三條 試驗成績ハ各擔任者ニ於テ試驗終了ノ日ヨリ二箇月以内ニ蠶業講習所長ニ報告スヘシ
- 第十四條 蠶業講習所長ハ試驗成績ヲ審查編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報告スヘシ
但臨時緊要ト認ムル試驗成績ハ時々報告スヘシ
- 第十五條 蠶業講習所長ハ毎年配布蠶種ノ枚數ヲ定メ配布ノ手續ヲナスヘシ
- 第十六條 蠶業講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ
- 第十七條 蠶業講習所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
- 第十八條 巡回講習若シハ講習會品評會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ所員ノ出張巡回ヲ申出ル者アルトキハ所長ニ於テ許否シ所員出張巡回ヲ要スル場合ニ於テハ日數十日以内ナルトキハ其旨ヲ農商務大臣ニ

- 報告シ十日ヲ越ユルトキハ認可ヲ請フヘシ
 - 第十九條 蠶業講習所長ハ所務ノ爲メ所員ノ出張巡回ヲ命スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ
但至急ヲ要シ經伺ノ暇ナキ場合ニ於テハ所長之ヲ命シ其旨農商務大臣ニ報告スヘシ
 - 第二十條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ
- 附則
- 本規程ノ製絲部ハ當分ノ内東京蠶業講習所ニノミ之ヲ置キ京都蠶業講習所ニ於テハ製絲ニ關スル事務ハ養蠶部ニ於テ之ヲ掌ル

● 蠶業講習所名稱位置

明治三十二年六月
農商務省告示第六十一號

蠶業講習所ノ位置及名稱左ノ通相定ム

名稱

位置

東京蠶業講習所
京都蠶業講習所

東京府下北豊島郡瀧ノ川村元西ヶ原
京都府下葛野郡衣笠村

第十節 水産講習所

● 水産講習所官制 明治三十年三月 勅令第四十七號

改正

● 明治三十一年十月 勅令第二百八十九號

● 明治三十三年三月 勅令第七十二號

● 明治三十四年四月 勅令第四十二號

朕水産講習所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
水産講習所官制

第一條 水産講習所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ水産ノ傳習及ヒ試験ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

- | | | | |
|----|------|----|------|
| 所長 | 一人 | 監事 | 專任一人 |
| 技師 | 專任四人 | 教授 | 專任三人 |
| 助手 | 專任九人 | 助教 | 專任四人 |
| 書記 | 專任五人 | | |

第三條 所長ハ水産局長ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 監事ハ奏任トス所長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ處理ス

第五條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第六條 教授ハ奏任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第七條 助手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第八條 助教ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第九條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 農商務大臣ハ講習上ノ須要ニ依リ水産講習所ニ商議委員ヲ設クルコトヲ得

● 水産講習所處務規程 明治三十一年十一月
農商務省訓令第四百號

水産講習所

水産講習所處務規程左ノ通改定ス

水産講習所處務規程

- 第一條 水産講習所ニ傳習試験ノ二部及庶務掛ヲ設ク
- 第二條 傳習部ニ於テハ漁撈製造及養殖ニ關スル學理及技術ヲ傳習ス
- 第三條 試験部ニ於テハ漁撈製造及養殖ニ關スル試験ヲ爲ス
- 第四條 庶務掛ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公文書類及成案文書ノ接受發遣ノコト
 - 二 所員進退出張巡廻等ニ關スルコト
 - 三 傳習生ノ募集及取締ニ關スル事項
 - 四 傳習及試験成績編纂印刷ニ關スルコト
 - 五 其他傳習試験ノ二部ニ屬セサル事項
- 第五條 所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シテ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
- 第六條 水産講習所長ハ月俸二十圓又ハ日給五十錢ヲ超エサル傭員ノ採用解雇ハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 第七條 水産講習所長ハ農商務大臣へ經伺ノ上傳習科程及傳習生ニ關スル規程ヲ定ムヘシ
- 第八條 水産講習所長ハ傳習及試験ノ成績ヲ審査編纂シ毎年二回農商務大臣ニ報告スヘシ

但臨時必要ト認ムルモノハ其都度報告スヘシ

第九條 水産講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ

第十條 水産講習所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

● 水産講習所名稱位置 明治三十五年九月
農商務省告示第百七十二號

名稱

位置

水産講習所

東京市深川區越中島八番地

● 水産講習所商議委員規程

明治三十年四月
農商務省勅令第十一號

水産講習所

水産講習所商議委員規程左ノ通定ム

水産講習所商議委員規程

第一條 水産講習所官制第十條ニ依リ水産講習所ニ商議委員ヲ置ク
第二條 商議委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ

農商務省高等官 一名

海軍省、文部省、逓信省又ハ其所屬高等官 四名以内

水産業ノ經歷アル者 五名以内

第三條 商議委員ノ會議ニ附スヘキモノハ講習科目及講習ニ關スル重要ノ諸規則其他所長ニ於テ必要ト認ムル事項トス

第四條 商議委員會ハ農商務大臣ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

第五條 商議委員會ハ所長之ヲ開キ其議案ヲ提出スルモノトス

但商議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案トナスコトヲ得

第六條 商議委員會ノ議事ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ議定スルコトヲ得

第七條 商議委員會ノ議決ハ所長ヨリ農商務大臣ニ報告スヘシ

●第十一節 鹽業調査所

●鹽業調査所官制 明治三十二年四月 勅令第九十一號

朕鹽業調査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鹽業調査所官制

第一條 鹽業調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鹽業改良ニ關スル調査及試驗ノ事務ヲ掌ル

第二條 鹽業調査所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 一人
- 技師 專任四人
- 技手 專任八人
- 書記 專任二人

第三條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

技師ノ内一人ハ勅任ト爲ヌコトヲ得

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第六條 書記ハ勅任トメ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

第七條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

鹽業調查所處務規程

明治三十二年六月
農商務省勅令第百三十二號

改正

明治三十二年八月
勅令第百四十號

鹽業調查所

其所處務規程左ノ通相定ム

鹽業調查所處務規程

- 第一條 鹽業調查所ニ試驗部分析部及庶務部ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二條 試驗部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 採鹹ニ關スル事項
 - 二 煎蒸ニ關スル事項
 - 三 氣象ニ關スル事項
 - 四 其他鹽業ノ調査ニ關スル事項
- 第三條 分析部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 製鹽及副産物ノ分析鑑定ニ關スル事項
 - 二 鹽田土壤及鹹水等ノ分析鑑定ニ關スル事項
- 第四條 庶務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 生産製造品ノ賣拂ニ關スル事項
 - 二 地所建物並ニ物品ノ購買及保管ニ關スル事項
 - 三 會計ニ關スル事項
 - 四 報告ノ編纂印刷及配布ニ關スル事項
 - 五 所員ノ進退身分ニ關スル事項

- 六 所長ノ官印及所印ノ保管ニ關スル事項
- 七 公文書類及成案文書ノ接受發遣ニ關スル事項
- 八 他部ノ主掌ニ屬セザル事項
- 第五條 鹽業調査所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス
- 第六條 所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ處辨セシムルコトヲ得
- 第七條 所長ハ事務整理ノ爲メ經伺ノ上處務細則ヲ設クルコトヲ得
- 第八條 所長ハ判任官以下ノ歸省者護送奉養地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得
- 第九條 所長ハ其主管業務ノ順序方法及分任擔當ヲ定メ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第十條 所長ハ月俸十五圓又ハ日給五十錢ヲ超ヘザル雇員及鹽業氣象報告員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 第十一條 事業上至急所員ノ出張ヲ要シ經伺ノ暇ナキ場合ニ限り臨時出張ヲ命シ同時ニ其事由ヲ記シ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第十二條 所長ハ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
- 第十三條 試驗及調査ニ關スル成績ハ各擔任者ニ於テ其結了ノ日ヨリ三十日以内ニ所長ニ報告スヘシ但本項ノ報告アリタルトキハ其都度農商務大臣ニ其要領ヲ具申スヘシ
- 第十四條 所長ハ試驗及調査ニ關スル成績ヲ編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第十五條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スヘキ事項ハ總テ水產局長ヲ經由スヘシ
- 第十六條 鹽業ニ關スル質問及分析鑑定ハ所長ニ於テ必要ト認ムルモノニ限り應答スヘシ

●鹽業調査所ニ顧問ヲ置クノ件

明治三十二年六月
勅令第二百三十九號

- 第一條 鹽業調査所ニ顧問一人ヲ置クコトヲ得
- 第二條 顧問ハ所務ニ關シ意見ヲ開陳ス
- 第三條 顧問ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第四條 顧問ハ勅任官ノ待遇ヲ受ク
- 第五條 顧問ニハ俸給豫算定額内ニ於テ年俸三千圓ヲ給ス

●第十二節 工業試験所

●工業試験所官制 明治三十三年六月
勅令第三百五十八號

改正 明治三十五年三月
勅令第三百〇九號

朕工業試験所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工業試験所官制

第一條 工業試験所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ工業ニ關スル試験、分析及鑑定ノ事ヲ掌ル

第二條 工業試験所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

技師 專任四人

技手 專任七人

書記 專任二人 判任

第三條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十三節 肥料礦物調査所

●肥料礦物調査所官制

明治三十四年四月
勅令第四十六號

朕肥料礦物調査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

肥料礦物調査所官制

第一條 肥料礦物調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ肥料用礦物ニ關スル調査及試驗ノ事務ヲ掌ル

第二條 肥料礦物調査所ニ左ノ職員ヲ設ク

所長 專任三人
技師 專任五人
技手 專任二人
書記 判任

第三條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

● 肥料礦物調査所處務規程

明治三十四年四月
農商務省勅令第百九號

肥料礦物調査所

其所處務規程左ノ通相定ム

肥料礦物調査所處務規程

- 第一條 肥料礦物調査所ハ肥料礦物ニ關スル調査及試験ヲ爲シ原料ノ產出應用ヲ圖ルヘシ
- 第二條 所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス
- 第三條 所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
- 第四條 所長ハ月俸十五圓又ハ日給五十錢ヲ超エサル雇員ノ採用及解免ヲ專行スルコトヲ得
- 第五條 所長ハ判任官以下ノ歸省者護墓參勤地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得
- 第六條 所長ハ事務處理ノ爲メ經伺ノ上處務細則ヲ設ケルコトヲ得
- 第七條 事業上至急所員ノ出張ヲ要シ經伺ノ暇ナキ場合ニ限り所長ニ於テ臨機出張ヲ命シ同時ニ其事由ヲ記シ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第八條 肥料礦物ニ關スル調査試験等ノ爲メ旅費ヲ負擔シ所員ノ出張ヲ申出ツル者アルトキ日數十日以内ナルトキハ所長之ヲ許否シ農商務大臣ニ報告シ日數十日ヲ超ユルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ルヘシ
- 第九條 所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
- 第十條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ
- 第十一條 所長ハ肥料礦物調査及試験ノ順序方法ヲ定メ豫メ認可ヲ受ルヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同

第拾參章 逋信省所管

第十二條 所長ハ調査及試験ノ要領ヲ毎年少ナクモ二回以上農商務大臣ニ報告スヘシ
第十三條 調査及試験ハ各擔任者ニ於テ終了ノ上直ニ其成績ヲ所長ニ提出スヘシ
第十四條 肥料礦物ニ關スル質問及分析鑑定ハ所長ニ於テ必要ト認ムルモノニ限り應答スヘシ

第拾參章

逋信省所管

シ

第十二條 所長ハ調査及試験ノ要領ヲ每年少ナクモ二回以上農商務大臣ニ報告スルベシ

第十三條 調査及試験ハ各擔任者ニ於テ終了ノ上直ニ其成績ヲ所長ニ提出スルベシ

第十四條 肥料肥料ニ關スル質問及分析鑑定ハ所長ニ於テ必要ト認めタルモノニ限リ應答スルベシ

行現 法規集第一篇第十三章目錄

○第一篇 官制 處務

○第十三章 遞信省所管

●第一節 遞信省

●遞信省官制.....一

●遞信省分課規程.....二

●第二節 鐵道

●鐵道會議規則.....三

●鐵道作業局官制.....四

●鐵道係員職制.....五

●第三節 通信官署

●通信官署官制.....六

●二等郵便局設置ノ件.....七

●電信局設置ノ件.....八

- 電話局設置ノ件 九
- 鐵道郵便局設置ノ件 一〇
- 通信官署及郵便爲替貯金管理所職員定員ノ件 一一
- 第四節 郵便爲替貯金 一二
- 郵便爲替貯金管理所官制 一三
- 第五節 航路標識 一三
- 航路標識管理所官制 一四
- 航路標識管理所ニ兼任ノ技師書記及技手ヲ置クノ件 一四
- 第六節 海事局 一五
- 海事局官制 一五
- 海事局職員ニ在清國帝國領事館附テ命スルノ件 一六
- 海務署名稱位置並ニ管轄區域 一七
- 第七節 海員審判所 一八
- 海員審判所職員定員及任用令 一八

- 海員審判所事務章程 一九
- 地方海員審判所管轄區域ノ件 二〇
- 第八節 學校 二〇
- 商船學校官制 二二
- 東京郵便電信學校官制 二三
- 第九節 定員外 二三
- 遞信省部内ノ官吏ニシテ陸軍戰時特設ノ職務ニ從事スル者定員外ト爲スノ件 二三

●電話局設置ノ件	九
●鐵道郵便局設置ノ件	一〇
●通信官署及郵便爲替貯金管理所職員定員ノ件	一一
●第四節 郵便爲替貯金	
●郵便爲替貯金管理所官制	一二
●第五節 航路標識	
●航路標識管理所官制	一三
●航路標識管理所ニ兼任ノ技師書記及技手ヲ置クノ件	一四
●第六節 海事局	
●海事局官制	一五
●海事局職員ニ在清國帝國領事館附テ命スルノ件	一六
●海務署名稱位置並ニ管轄區域	一七
●第七節 海員審判所	
●海員審判所職員定員及任用令	一八

●海員審判所事務章程	一九
●地方海員審判所管轄區域ノ件	二〇
●第八節 學校	
●商船學校官制	二一
●東京郵便電信學校官制	二二
●第九節 定員外	
●遞信省部内ノ官吏ニシテ陸軍戰時特設ノ職務ニ從事スル者定員外ト爲スノ件	二三

○第一篇 官制 處務

◎第十三章 遞信省所管

●第一節 遞信省

●遞信省官制 明治三十一年十月 勅令第二百九十五號

改正 ●明治三十三年五月 ●明治三十四年五月 ●明治三十五年三月
勅令第三百七十七號 勅令第四百號 勅令第四百十四號

朕遞信省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省官制

第一條 遞信大臣ハ官設鐵道、郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話及航路標識ヲ管理シ北海
道官設鐵道、私設鐵道、電氣、造船、水陸運輸ニ關スル事業及航路、船舶、海員ヲ監督ス

第二條 遞信省專任參事官ハ三人專任書記官ハ十人ヲ以テ定員トス

第三條 遞信省ニ左ノ局所ヲ置ク

鐵道局

通信局

管船局

電信燈臺用品製造所

第四條 鐵道局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 鐵道ノ監督ニ關スル事項

- 二 私設鐵道ノ免許ニ關スル事項
- 三 鐵道補助金ニ關スル事項
- 第五條 通信局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ニ關スル事項
 - 二 陸運及電氣事業ノ監督ニ關スル事項
 - 三 遞信事業ニ關スル經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
- 第六條 管船局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 航路標識ニ關スル事項
 - 二 航路、船舶、海員、水運及保護海事會社ノ監督ニ關スル事項
- 第七條 電信燈臺用品製造所ニ於テハ電信燈臺用品ノ作業ニ關スル事務ヲ掌ル
所長ハ遞信省高等官ヲシテ之ヲ兼テシム
- 第七條ノ二 遞信省ニ鐵道事務官專任二人及鐵道書記專任二人ヲ置キ鐵道局ニ屬セシム
鐵道事務官ハ奏任トス鐵道營業ノ監視ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第八條 遞信省ニ專任技師三十六人ヲ置ク但内三人以内ヲ勅任トス
- 第九條 遞信省屬ハ二百三十二人ヲ以テ定員トス
- 第十條 遞信省ニ專任技手七十八人ヲ置ク
- 附則
- 第十一條 本令ハ明治三十一年十二月一日ヨリ施行ス

● 遞信省分課規程 明治三十四年 一月四日官報

改正 ●明治三十四年 八月五日官報 ●明治三十四年 十一月五日官報

遞信省分課規程

- 第一條 大臣官房ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 機密文書ニ關スルコト
 - 二 機密事務ニ關スルコト
 - 三 官吏ノ進退賞罰及身分ニ關スルコト
 - 四 官吏ノ恩給及退官賜金ニ關スルコト
 - 五 備外國人ノ身分ニ關スルコト
 - 六 大臣ノ官印及省印管守ニ關スルコト
- 第二條 總務局ニ左ノ二課ヲ置ク
文書課
會計課
- 第三條 (削除)
- 第四條 總務局文書課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 公文書類及成案文書ノ授受發送ニ關スルコト
 - 二 統計報告ノ調製及官報掲載ニ關スルコト
 - 三 公文書類ノ編纂保存ニ關スルコト

- 四 圖書ノ出納保管ニ關スルコト
- 五 本省各局課ニ屬セサル事務ニ關スルコト
- 第五條 總務局會計課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並ニ會計ニ關スルコト
 - 二 本省所管各特別會計規定ノ審査並ニ其豫算決算ノ調査ニ關スルコト
 - 三 本省所管一般及特別會計ノ監査ニ關スルコト
 - 四 本省所屬出納官吏ノ身元保證金ニ關スルコト
 - 五 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スルコト
 - 六 廳舎ノ建築修繕ニ關スルコト
 - 七 省中取締ニ關スルコト
- 第六條 鐵道局ニ左ノ三課ヲ置ク
 - 庶務課
 - 設計課
 - 營業課
- 第七條 鐵道局庶務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 鐵道ノ法規及經營ニ關スルコト
 - 二 私設鐵道ノ免許ニ關スルコト
 - 三 私設鐵道會社ノ補給補助及會計ニ關スルコト
 - 四 鐵道統計ニ關スルコト
 - 五 本局所屬ノ庶務、會計、人員ニ關スルコト

- 六 局中各課ニ屬セサル事務ニ關スルコト
- 第八條 鐵道局設計課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 鐵道線路ノ調査ニ關スルコト
 - 二 鐵道ノ設計及工事ニ關スルコト
 - 三 鐵道臺帳ニ關スルコト
- 第九條 鐵道局營業課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 鐵道ノ運輸ニ關スルコト
 - 二 鐵道ノ運輸ニ關スルコト
 - 三 鐵道係員ノ職制ニ關スルコト
- 第十條 通信局ニ左ノ八課一所ヲ置ク
 - 庶務課
 - 郵務課
 - 鐵道船舶郵便課
 - 電務課
 - 外信課
 - 調度課
 - 營業課
 - 工務課
 - 電氣試驗所
- 第十一條 通信局庶務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 郵便、鐵道船舶郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ニ屬スル庶務ニ關スルコト
- 二 郵便、鐵道船舶郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ニ屬スル各般ノ調査ニ關スルコト
- 三 遞信事業ニ屬スル經費及諸收入ノ豫算決算並ニ會計ニ關スルコト
- 四 東京郵便電信學校ニ關スルコト
- 五 局中各課ニ屬セサル事務ニ關スルコト
- 第十二條 通信局郵務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ法規及事業ノ經營ニ關スルコト
 - 二 陸軍事業ノ監督ニ關スルコト
- 第十三條 通信局鐵道船舶郵便課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 鐵道船舶郵便ノ法規及事業ノ經營ニ關スルコト
- 第十四條 通信局電務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 電信電話ノ法規及事業ノ經營ニ關スルコト
 - 二 電報送受料金收納ノ監査ニ關スルコト
 - 三 電信電話ノ線路ニ關スルコト
 - 四 電氣事業ノ監督ニ關スルコト
- 第十五條 通信局外信課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 外國郵便、外國郵便爲替及外國電信ノ事務ニ關スルコト
- 第十六條 通信局調度課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 郵便、鐵道船舶郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話用ニ屬スル器具物品ノ購買貯藏及配給ニ關スルコト

- 第十七條 通信局營繕課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 遞信事業ニ屬スル廳舎ノ建築修繕ニ關スルコト
- 第十八條 通信局工務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 電信電話建築保存工事ニ關スルコト
- 第十九條 通信局電氣試驗所ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 電信電話ノ技術ニ關スルコト
 - 二 電氣事業技術上ノ監督ニ關スルコト
- 第二十條 管船局ニ左ノ三課ヲ設ク
 - 監理課
 - 船舶課
 - 海員課
- 第二十一條 管船局監理課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
 - 一 内外航路ニ關スルコト
 - 二 航海ノ補助及獎勵ニ關スルコト
 - 三 海事團體及水運ノ監督ニ關スルコト
 - 四 航路標識ニ關スルコト
 - 五 海事ノ調査ニ關スルコト
 - 六 本局ノ主管ニ屬スル庶務、會計、統計及人員ニ關スルコト
 - 七、本局主管ノ事務ニ屬スル褒賞ニ關スルコト
 - 八 局中各課ニ屬セサル事務ニ關スルコト

第二十二條 管船局船舶課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 造船事業ノ監督ニ關スルコト
 - 二 造船獎勵ニ關スルコト
 - 三 船舶ノ登録ニ關スルコト
 - 四 船舶ノ測度及検査ニ關スルコト
 - 五 船燈信號器及救命具ニ關スルコト
- 第二十三條 管船局海員課ハ左ノ事務ヲ掌理ス
- 一 海員ノ試験及登録ニ關スルコト
 - 二 海員ノ審判ニ關スルコト
 - 三 海員ノ養成、保護及取締ニ關スルコト
 - 四 商船學校ニ關スルコト
 - 五 港務及水路ニ關スルコト
 - 六 海上信號ニ關スルコト
 - 七 水難救護ニ關スルコト

第二十四條 電信燈臺用品製造所ニ左ノ二課一場ヲ置ク

計理課
製機課

横濱製作場

第二十五條 電信燈臺用品製造所計理課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 作業歳入歳出豫算決算出納ニ關スルコト

第二十六條 電信燈臺用品製造所製機課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 電信用品ノ製造及修繕工事ニ關スルコト

第二十七條 電信燈臺用品製造所横濱製作場ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 航路標識用品ノ製造及修繕工事ニ關スルコト

●第二節 鐵道

●鐵道會議規則

明治二十七年八月
勅令第百五十三號

改正

●明治二十九年六月
勅令第百五十七號

●明治三十年十月
勅令第百五十七號

朕鐵道會議規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道會議規則

- 第一條 鐵道會議ハ遞信大臣ノ監督ニ屬シ鐵道敷設法第十五條ニ掲クル事項ヲ審議シ及鐵道ニ關スル事項ニ就キ遞信大臣ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申スルモノトス
- 第二條 鐵道會議ハ鐵道ニ關スル事項ニ就キ主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第三條 鐵道會議ハ事務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 鐵道會議ハ議長一人議員二十一人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
- 遞信省高等官四人、陸軍省及參謀本部高等官二人、海軍省及海軍軍令部高等官二人、內務省、大藏省、農商務省高等官各一人ハ議員ニ加フヘキモノトス
- 第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲ニ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時議員ヲ命スルコトヲ得
- 第六條 議長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ
- 高等官ノ内ヨリ命スヘキ議員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其ノ他ノ議員及臨時議員ハ遞信大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第七條 議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ遞信大臣及主任各省大臣ニ具申ス
- 第八條 議長事故アルトキハ其ノ指名シタル議員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第九條 鐵道會議ニ幹事一人ヲ置キ遞信省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條 議長、議員及幹事ニハ一箇年五百圓以内、臨時議員ニハ事件ノ輕重ニ應シ其ノ都度相當ノ手當

ヲ給スルコトヲ得

第十一條 鐵道會議ニ書記ヲ置ク議長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

書記ハ遞信屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 書記ニハ一箇年二百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

第十三條 從前ノ議長、議員及臨時議員ハ別ニ辭令ヲ用サズ本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモ
ノトス

●鐵道作業局官制

明治三十年八月
勅令第二百六十八號

改正

●明治三十一年七月
勅令第三百五十一號

●明治三十二年六月
勅令第二百四十四號

●明治三十四年四月
勅令第七十一號

●明治三十五年七月
勅令第三百九十號

朕鐵道作業局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道作業局官制

第一條 鐵道作業局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ官設鐵道ノ建設、保存及運輸ノ業務ヲ掌ル

第二條 鐵道作業局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

部長

鐵道事務官補

鐵道技師

鐵道事務官

鐵道書記

鐵道技手

鐵道書記補

第三條 長官ハ一人勅任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 (削除)

第五條 部長ハ定員五人奏任トシ長官ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ分掌ス

第六條 鐵道事務官ハ專任二十人奏任トス各部ニ分屬シ部務ヲ掌ル
 第六條ノ二 鐵道事務官補ハ專任十五人奏任トス各部ニ分屬シテ部務ヲ掌ル
 第七條 鐵道技師ハ專任九十七人ヲ以テ定員トシ内三人以内ヲ勅任トス
 第八條 鐵道書記ハ千七十五人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 第九條 鐵道技師ハ四百十一人ヲ以テ定員トス
 第十條 鐵道書記補ハ五百八十八人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ク
 第十一條 鐵道作業局ニ左ノ五部ヲ置ク

- 建設部
- 工務部
- 瀛車部
- 運輸部
- 計理部

各部事務ノ分掌ハ遞信大臣之ヲ定ム
 第十二條 建設部長工務部長瀛車部長運輸部長ハ鐵道技師ヲシテ之ヲ兼テシム
 第十三條 遞信大臣ハ必要ニ應シ局中ニ課ヲ置キ又ハ地方ニ鐵道業務取扱ノ部所ヲ置キ各部ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
 課ニ課長部所ニ部所長ヲ置キ高等官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ
 附則
 第十四條 明治二十九年勅令第八十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●鐵道係員職制 明治三十三年八月 遞信省令第三十七號

鐵道係員職制左ノ通定ム

鐵道係員職制

- 第一條 鐵道ニハ左ノ係員ヲ置ク
- 運輸長
 - 車輛長
 - 保線長
 - 驛長
 - 車掌
 - 出札掛
 - 改札掛
 - 貨物掛
 - 小荷物掛
 - 電信掛
 - 機車掛
 - 信號手
 - 轉轍手
 - 驛夫
 - 機關庫主任

機關手
 火夫
 車輛検査番
 注油夫
 保線手
 線路工夫
 隧道番
 橋梁番
 踏切番

第二條 運輸長ハ鐵道ノ運輸及鐵道用電氣通信並信號ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス
 第三條 車輛長ハ車輛ノ修理、保管及運轉ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス
 第四條 保線長ハ線路並諸建造物ノ修理及保存ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス
 第五條 驛長ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ驛務ヲ處理シ驛員ヲ監督ス
 第六條 車掌ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ列車ノ運轉及輸送ノ事務ニ從事ス
 第七條 車掌ハ列車カ停車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承ケテ其ノ事務ヲ執行ス
 第八條 車掌ハ車内ノ秩序ヲ保持スル爲必要アルトキハ旅客ニ對シ相當ノ指圖及處分ヲ爲スコトヲ得
 第九條 出札掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乗車券發賣ノ事務ニ從事ス
 第十條 改札掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乗車券ノ檢査及集收ノ事務ニ從事ス
 第十一條 貨物掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ運送貨物ノ受授、保管ノ事務ニ從事ス

第十二條 小荷物掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ小荷物及手荷物ノ受授、保管ノ事務ニ從事ス
 第十三條 電信掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ停車場ニ於ケル電氣通信ノ事務ニ從事ス
 第十四條 操車掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ停車場ニ於ケル車輛ノ入レ換及操配ニ從事ス
 第十五條 信號手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ信號ノ取扱ニ從事ス
 第十六條 轉轍手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ轉轍器ノ取扱ニ從事ス
 第十七條 驛夫ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ停車場ニ於ケル雜務ニ從事ス
 第十八條 機關庫主任ハ車輛長ノ指揮ヲ承ケ機關庫ニ關スル事務ヲ處理シ所屬ノ係員ヲ監督ス
 第十九條 機關手ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ機關車運轉ノ事務ニ從事ス
 第二十條 機關手ハ列車運輸中ニ在リテハ車掌又列車カ停車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承ケテ其ノ事務ヲ執行ス
 第二十一條 火夫ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス
 第二十二條 注油夫ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス
 第二十三條 車輛検査番ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス
 第二十四條 保線手ハ保線長ノ指揮ヲ承ケ線路ノ修理、保存ノ事務ニ從事シ所屬係員ヲ監督ス
 第二十五條 線路工夫ハ保線手ノ指示ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス
 第二十六條 隧道番、橋梁番及踏切番ハ保線手ノ指示ヲ承ケ隧道、橋梁及踏切ノ看守ニ從事ス
 第二十七條 停車場内及其ノ附近ニ於ケル看守ニ付テハ驛長ノ指示ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス
 第二十八條 鐵道ハ其ノ狀況ニ依リ本職制ニ定メタル係員ノ職務ヲ分テ若ハ之ヲ合シテ別ニ係員ヲ設
 シルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ私設鐵道ハ其ノ職制ヲ定メ認可ヲ受クヘシ
本職制ニ定メタル係員以外ニ現業従事員ヲ置クトキハ私設鐵道ハ其ノ職掌ヲ定メ届出ツヘシ之ヲ變
更スルトキ亦同シ

第二十七條 私設鐵道ノ狀況ニ依リ本職制ニ定ムル係員ノ職務ヲ分テ特ニ主務ノ係員ヲ置キ又ハ特種
ノ現業従事員ヲ置カシムルコトアルヘシ

第二十八條 私設鐵道ハ鐵道係員ノ定員表ヲ調製シテ届出ツヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

附則

第二十九條 本職制ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三節 通信官署

●通信官署官制

明治三十六年三月
勅令第四十號

朕通信官署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

通信官署官制

第一條 通信官署ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 通信官署ハ通信管理局、郵便局、電信局、電話局及鐵道郵便局トス

郵便局ハ郵便、郵便爲替及郵便貯金事務ノ外電信及電話事務ヲ、電信局ハ電信事務ノ外電話事務ヲ兼
掌スルコトヲ得

郵便局、電信局及電話局ニハ支局ヲ設ケルコトヲ得

第三條 郵便局ヲ分テ一等二等三等トス

第四條 通信管理局ハ其ノ管轄區域内ノ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ノ事務ヲ管理シ並局舎
營繕事務ノ一部及電信電話ノ建築事務ヲ掌ル

第五條 一等郵便局ハ其ノ管轄區域内ノ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ノ管理事務並局舎營繕
事務ノ一部及電信電話ノ建築事務ヲ兼掌ス

第六條 遞信大臣ハ二等郵便局ヲシテ其ノ指定シタル區域内ニ於テ管理事務ノ一部ヲ分掌セシムルコ
トヲ得

第七條 通信管理局及一等郵便局ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル
鐵道郵便ニ關スル管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

- 第八條 電信局、電話局、二等郵便局、鐵道郵便局及三等郵便局ノ名稱及位置ハ逓信大臣之ヲ定ム
- 第九條 逓信大臣ハ必要ナル在外各地ニ郵便局ヲ設クルコトヲ得
- 第十條 逓信大臣ハ在外郵便局ヲ指定シ區域ヲ定メテ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ノ事務ヲ管理セシムルコトヲ得
- 第十一條 逓信大臣ハ必要ナル地ニ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ノ取扱所ヲ設クルコトヲ得
- 第十二條 通信官署ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 通信管理局長
 - 一等郵便局長
 - 通信事務官
 - 通信事務官補
 - 通信技師
 - 在外郵便局長
 - 電信局長
 - 電話局長
 - 二等郵便局長
 - 鐵道郵便局長
 - 郵便支局長
 - 電信支局長
 - 電話支局長
 - 通信書記

通信技手
通信書記補
三等郵便局長

- 第十三條 通信管理局長ハ勅任又ハ奏任トス逓信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス
- 第十四條 一等郵便局長ハ奏任トス逓信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス
- 第十五條 通信事務官及通信事務官補ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
- 第十六條 通信技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十七條 在外郵便局長、電信局長、二等郵便局長、鐵道郵便局長、郵便支局長及電信支局長ハ通信事務官、通信事務官補又ハ通信書記ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス
- 第十八條 通信局長及電話支局長ハ通信技師又ハ通信技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス
- 第十九條 通信書記及通信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス
- 第二十條 通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ従事ス
- 第二十條 三等郵便局長ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
郵便及電信局官制在外郵便電信局郵便局官制及電話交換局官制ハ之ヲ廢止ス

(別表)

通信管理局及一等郵便局名稱位置管轄區域表

名	稱	位	置	管	轄	區	域
東京通信管理局	武藏國	東京	東京府	埼玉縣	千葉縣	山梨縣	
大阪通信管理局	攝津國	大阪	大阪府	奈良縣	和歌山縣		
京都郵便局	山城國	京都	京都府	滋賀縣			
橫濱郵便局	武藏國	橫濱	神奈川縣	靜岡縣			
神戶郵便局	攝津國	神戶	兵庫縣	岡山縣	鳥取縣		
長崎郵便局	肥前國	長崎	長崎縣	佐賀縣			
札幌郵便局	石狩國	札幌	北海道				
新潟郵便局	越後國	新潟	新潟縣				
名古屋郵便局	尾張國	名古屋	愛知縣	岐阜縣	三重縣		
熊本郵便局	肥後國	熊本	熊本縣	福岡縣	大分縣		
仙臺郵便局	陸前國	仙臺	宮城縣	福島縣	山形縣		
廣島郵便局	安藝國	廣島	廣島縣	島根縣	山口縣		
宇都宮郵便局	下野國	宇都宮	栃木縣	群馬縣	茨城縣		
長野郵便局	信濃國	長野	長野縣				

青森郵便局	陸奥國	青森	青森縣	岩手縣	秋田縣
金澤郵便局	加賀國	金澤	石川縣	富山縣	福井縣
高松郵便局	讃岐國	高松	香川縣	愛媛縣	高知縣
鹿兒島郵便局	薩摩國	鹿兒島	鹿兒島縣	宮崎縣	沖繩縣

● 二等郵便局設置ノ件

明治三十六年三月
逓信省告示第百八十三號

來四月一日ヨリ左ノ二等郵便局ヲ置キ其地ノ郵便電信本局ノ郵便現業事務ヲ繼承ス

名稱

位置

東京中央郵便局

武藏國東京市日本橋區四日市

大阪中央郵便局

攝津國大阪市北區中ノ島二丁目

●電信局設置ノ件

明治三十六年三月
逓信省告示第百八十四號

來四月一日ヨリ左ノ電信局ヲ置キ其地ノ郵便電信本局ノ電信現業事務ヲ繼承ス

名稱

位置

東京中央電信局
大阪中央電信局

武藏國東京市日橋區四日市
攝津國大阪市北區中ノ島二丁目

● 電話局設置ノ件

明治三十六年三月
逓信省告示第百八十五號

來四月一日ヨリ左ノ電話局ヲ設キ其地ノ電話交換局ノ現業事務ヲ繼承ス

名稱

位置

東京中央電話局
大阪中央電話局

武藏國東京市麴町區錢瓶町
攝津國大阪市東區平野町

●鐵道郵便局設置ノ件

明治三十六年三月
逓信省告示第八十六號

來四月一日ヨリ左ノ鐵道郵便局ヲ置キ其地ノ郵便電信局鐵道郵便課ノ事務ヲ繼承ス
但鐵道郵便局ハ其所在地ヲ管轄スル逓信管理局又ハ一等郵便局ノ管轄ニ屬ス

名稱

位置

東京鐵道郵便局
大阪鐵道郵便局
神戸鐵道郵便局
札幌鐵道郵便局
名古屋鐵道郵便局
熊本鐵道郵便局
仙臺鐵道郵便局
廣島鐵道郵便局
長野鐵道郵便局
青森鐵道郵便局
金澤鐵道郵便局

武藏國東京市
攝津國大阪市
攝津國神戸市
石狩國札幌區
尾張國名古屋市
肥後國熊本市
陸前國仙臺市
安藝國廣島市
信濃國長野市
陸奥國青森市
加賀國金澤市

● 通信官署及郵便爲替貯金管理所職員定員ノ件

明治三十六年三月
勅令第四十三號

朕通信官署及郵便爲替貯金管理所職員定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 通信官署及郵便爲替貯金管理所職員ノ定員ハ左ノ通トス但シ三等郵便局長ハ定員外トス

通信管理局長

二人

郵便爲替貯金管理所長

一人

一等郵便局長

十六人

通信事務官

專任

十八人

通信事務官補

專任

三十五人

通信技師

專任

四十人

通信書記

專任

三千三百八十七人

通信技手

專任

四百五十三人

通信書記補

專任

三千六百十九人

第二條 各局所ノ定員ハ遞信大臣之ヲ定ム

第三條 通信事務官、通信技師、通信書記及通信技手ハ臨時命ヲ承ケ遞信省通信局ノ事務ヲ助ス

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 第四節 郵便爲替貯金

● 郵便爲替貯金管理所官制

明治三十年八月
勅令第二百七十一號

改正

● 明治三十六年三月
勅令第四十二號

朕郵便爲替貯金管理所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
郵便爲替貯金管理所官制

第一條 郵便爲替貯金管理所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便爲替資金郵便貯金ヲ管理シ及郵便爲替郵便貯金ノ検査計算ニ關スル事務ヲ掌理スル所トス

第二條 郵便爲替貯金管理所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長

通信事務官

通信事務官補

通信書記

通信書記補

第三條 郵便爲替貯金管理所長ハ奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス
第四條 通信事務官、通信事務官補ハ奏任トス所長ノ事務ヲ助ケ又ハ郵便爲替貯金管理支所長トナリ
其ノ事務ヲ掌理ス

第五條 通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記、簿記、計算ノ事務ニ従事ス

第六條 通信書記補ハ判任トス通信書記ノ事務ヲ助ク

第七條 遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便爲替貯金管理支所ヲ設キ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第五節 航路標識

●航路標識管理所官制 明治二十六年十月 勅令第百五十四號

改 / ●明治二十九年三月 勅令第百八十三號 ●明治三十年八月 勅令第百七十二號 ●明治三十三年五月 勅令第百八十號 ●明治三十五年三月 勅令第百十七號

正 ●明治三十年三月 勅令第百六十八號 ●明治三十一年十月 勅令第百九十八號 ●明治三十四年五月 勅令第百二號

朕航路標識管理所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

航路標識管理所官制

第一條 航路標識管理所ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航路標識ノ工事及其ノ保守ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 航路標識管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

書記

技手

看守

第三條 所長ハ一人奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ六人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ所中ノ事務ヲ分掌ス

第五條 書記ハ判任トシ二十人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 技手ハ三十人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ工事ニ從事ス

第七條 看守ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守ニ從事ス其ノ定員ハ左ノ如シ

一等燈臺	各三人
二等燈臺	各三人
三等燈臺	各二人
四等燈臺	
五等燈臺	
六等燈臺	
等外燈臺	各二人
燈船	二人
霧警號	二人

遞信大臣ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ前項定員ノ外航路標識看守豫備員十五人以内ヲ置クコトヲ得

附則

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●航路標識管理所ニ兼任ノ技師書記及技手ヲ置クノ件

明治二十八年十月
勅令第百五十一號

朕航路標識管理所ニ兼任ノ技師書記及技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
航路標識管理所ニハ技師書記及技手定員ノ外必要ニ應ジ兼任ノ技師書記及技手ヲ置クコトヲ得

●第六節 海軍局

●海軍局官制 明治三十二年六月 勅令第二百六十三號

改正 ●明治三十三年五月 勅令第三百八十一號 ●明治三十四年五月 勅令第三百三號 ●明治三十五年三月 勅令第三百十八號

朕海軍局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍局官制

- 第一條 海軍局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ船舶職員及水先人ノ試験船舶ノ測度検査其ノ他法令ノ定ムル所ニ從ヒ管海官廳ノ事務ヲ掌ル
- 第二條 海軍局ノ名稱位置及管轄區域ハ別表ニ依ル
- 第三條 海軍局管轄區域内須要ノ地ニ海務署又ハ出張所ヲ置キ局務ヲ分掌セシム其ノ名稱位置及管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム
- 第四條 各海軍局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク
- | | | |
|-----|----|--------|
| 局長 | 奏任 | 四人 |
| 海軍官 | 奏任 | 專任四十九人 |
| 書記 | 判任 | 專任三十六人 |
| 技手 | | 專任三十人 |
- 第五條 局長ハ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス
- 第六條 海軍官ハ海務署長タル者ノ外海軍局又ハ海務署ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌ス
- 第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 海事官ハ臨時命ヲ承テ逕信省管船局ノ事務ヲ助ク
第九條 海務署ニ署長ヲ置キ海事官ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第十條 木令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ施行ス

船舶司檢所官制及明治三十年勅令第二百二十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十一條 本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ船舶司檢所司檢官ニシテ船舶司檢所長ノ職ニ在ル者ハ海事局長ニ船舶司檢所司檢官及船舶司檢所司檢官補ハ海事官ニ船舶司檢所書記ハ海事局書記ニ船舶司檢所技手ハ海事局技手ニ任セラレタルモノトス

(別表)

海事局名稱位置管轄區域表

名	稱	位	置	管	轄	區	域
東京海事局	武藏國	東京	東京府 神奈川縣 新潟縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣 三重縣 愛知縣 靜岡縣 山梨縣 岐阜縣 長野縣 宮城縣 福島縣 巖手縣 山形縣 石川縣 <small>(加賀國ヲ除ク)</small> 富山縣				
大阪海事局	攝津國	大阪	京都府 大阪府 兵庫縣 奈良縣 滋賀縣 福井縣 石川縣 <small>(加賀國ニ付)</small> 鳥取縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 和歌山縣 徳島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣 福岡縣 <small>(筑後國ヲ除ク)</small> 大分縣				

長崎海事局	肥前國	長崎	長崎縣 福岡縣 <small>(筑後國ニ付)</small> 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣
函館海事局	北海道	函館	北海道 青森縣 秋田縣

●海事局職員ニ在清國帝國領事館附ヲ命スル件

明治三十一年九月
勅令第二百六號

(海事局官制第十一條參看)

朕船舶司檢所職員ニ在清國帝國領事館附ヲ命スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
遞信大臣ハ事務ノ必要ニ由リ船舶司檢所職員ニ在清國帝國領事館附ヲ命スルコトヲ得

●海務署名稱位置並管轄區域

明治三十二年六月
逕信省告示第百七十六號

改正

●明治三十三年三月
告示第百三號

●明治三十四年二月
告示第九十九號

●明治三十四年十二月
告示第五百十四號

海軍局ノ事務ヲ分掌セシムル海務署ノ名稱位置並管轄區域左ノ通相定メ本日ヨリ施行ス

海務署名稱位置並管轄區域

名	稱	位	置	管・轄	區	域
橫濱	海務署	武藏國	橫濱	神奈川縣	(三浦郡鎌倉郡ヲ除ク)	
浦賀	海務署	相模國	浦賀	神奈川縣	内三浦郡鎌倉郡	
清水	海務署	駿河國	清水	靜岡縣		
半田	海務署	尾張國	半田	愛知縣	岐阜縣	
鳥羽	海務署	志摩國	鳥羽	三重縣		
石卷	海務署	陸前國	石卷	宮城縣	巖手縣	
新潟	海務署	越後國	新潟	新潟縣	山形縣	
伏木	海務署	越中國	伏木	富山縣	石川縣	(加賀國ヲ除ク)
神戸	海務署	攝津國	神戸	兵庫縣	岡山縣	徳島縣

高知海務署	土佐國高知	高知縣
多度津海務署	讚岐國多度津	香川縣
三津濱海務署	伊豫國三津濱	愛媛縣 山口縣ノ内大島郡
糸崎海務署	備後國糸崎	廣島縣
赤間關海務署	長門國赤間關	山口縣(大島郡ヲ除ク) 福岡縣(筑後國ヲ除ク) 大分縣
境海務署	伯耆國境	鳥取縣 島根縣
口ノ津海務署	肥前國口ノ津	熊本縣 福岡縣(筑後國一四) 長崎縣ノ内 南高來郡
鹿兒島海務署	薩摩國鹿兒島	鹿兒島縣 宮崎縣 沖繩縣
小樽海務署	後志國小樽	北海道ノ内 後志國 石狩國 天鹽國 北見國

第七節 海員審判所

●海員審判所職員定員及任用令 明治三十年四月 勅令第七十八號

正改

●明治三十年十二月 勅令第四百四十九號
 ●明治三十二年六月 勅令第二百六十五號
 ●明治三十四年五月 勅令第七十二號
 ●明治三十一年七月 勅令第三百六十號
 ●明治三十三年五月 勅令第三百八十二號

朕海員審判所職員定員及任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海員審判所職員定員及任用令

第一條 高等海員審判所職員定員ハ左ノ如シ

所長 一人

審判官 十二人

理事官 二人

書記 四人

第二條 地方海員審判所職員定員ハ各所ヲ通シテ左ノ如シ

所長 四人

審判官 二十八人

理事官 專任四人

書記 十六人

第三條 高等海員審判所長ハ勅任トシ遞信省高等官ヲ以テ之ヲ兼スシム

高等海員審判所審判官ハ奏任トシ中十名ハ遞信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼スシム

高等海員審判所理事官ハ奏任トシ中一名ハ遞信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム
 高等海員審判所書記ハ判任トシ中三名ハ遞信屬又ハ海事局書記ヲシテ之ヲ兼ネシム
 第四條 地方海員審判所長ハ奏任トシ海事局長又ハ海事官ヲシテ之ヲ兼ネシム
 地方海員審判所審判官ハ奏任トシ中二十二名ハ遞信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム
 地方海員審判所理事官ハ奏任トス
 地方海員審判所書記ハ判任トシ中十二名ハ海事局書記ヲシテ之ヲ兼ネシム
 第五條 高等海員審判所審判官理事官及地方海員審判所審判官理事官ハ文官任用令第二條ニ該當スル者又ハ海軍高等武官主理判事檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者又ハ遞信部内ノ高等官ヨリ任用ス

●海員審判所事務章程

明治三十年六月
勅令第百八十九號

朕海員審判所事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海員審判所事務章程

第一條 審判所長ハ海員審判所ノ事務ヲ總理ス
 審判所長故障アルトキハ審判官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ先ナル者之ヲ代理ス
 第二條 審判所長ハ自ら審判長ト爲リ若ハ審判官ニ審判長ヲ命スルコトヲ得
 第三條 各審判事件ノ掛審判官ハ審判所長ノ指定ニ依ル
 第四條 四日以上引續シヘキ見込アル審判ニ於テ審判所長ハ補充審判官一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充審判官ハ其ノ審判中或ル審判官ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審判ヲ完結スルノ權ヲ有ス
 第五條 審判官若ハ理事官差支アリテ同一審判所ノ審判官若ハ理事官中其ノ職務ヲ行フヘキ者ナキ場合ニ遞信大臣ニ於テ其ノ事件緊急ヲ要スト認ムルトキハ他ノ審判所ノ審判官若ハ理事官ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得
 第六條 審判ノ公開ヲ停止スルノ決定ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入延セシムヘシ
 第七條 審判ハ定數ノ審判官之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス
 評議ハ其ノ審判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ頗末並各審判官ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ秘密ヲ守ルコトヲ要ス

評議ノ際各審判官意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ審判長ヲ終トス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ後ナル者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命審判官ヲ始トス

第八條 審判官ハ審判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 裁決及決定ハ過半数ノ意見ニ依ル其ノ意見三説以上ニ分レ各過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマテ被審人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第十條 裁決ヲ言渡シタルトキハ審判所長ハ直ニ遞信大臣ニ裁決ノ謄本ヲ差出スヘシ

第十一條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シ取調ヲ爲シタル後テ審判ヲ要セスト思料

スルトキハ理由ヲ具シ審判所長ヲ經由シテ遞信大臣ニ報告スヘシ

第十二條 審判所ニ於テ或ル事件ニ付審判ヲ開始セズ若ハ繼續セスト決定シタルトキハ審判所長ハ之ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

第十三條 審判所長ハ遞信大臣ノ認可ヲ受テ事務取扱ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十四條 事務ノ執行ニ關シ遞信大臣ハ各審判所長ヲ監督シ高等海員審判所長ハ各地方海員審判所長ヲ監督ス

職務ノ執行ニ關シ高等海員審判所理事官ハ遞信大臣ノ命令ニ從ヒ地方海員審判所理事官ハ遞信大臣及高等海員審判所理事官ノ命令ニ從フ

● 地方海員審判所管轄區域ノ件

明治三十二年六月
勅令第三百六十四號

朕地方海員審判所管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方海員審判所管轄區域ハ海事局管轄區域ニ同シ

附 則

本令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ施行ス

明治三十年勅令第九十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●第八節 學校

●商船學校官制 明治二十九年三月 勅令第八十一號

改正

●明治三十年八月 勅令第二百七十五號
●明治三十二年六月 勅令第二百六十六號
●明治三十五年三月 勅令第二百二十號
●明治三十一年七月 勅令第三百五十四號
●明治三十四年五月 勅令第三百五號

朕商船學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商船學校官制

第一條 商船學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航海、運用、機關ニ關スル學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條 商船學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 幹事
- 教授 學生監
- 教諭 助教
- 書記

第三條 校長ハ勅任又ハ奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第五條 教授ハ奏任トシ專任十三人ヲ以テ定員トス學生ノ教授ヲ掌ル

第六條 學生監ハ奏任トシ專任一人ヲ以テ定員トス學生ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 教諭ハ奏任トシ專任十一人ヲ以テ定員トス技藝ヲ教授シ又ハ實地練習ヲ監督ス

第八條 助教ハ判任トシ專任十人ヲ以テ定員トス教授及教諭ノ職掌ヲ助ク

第九條 書記ハ判任トシ專任八人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十條 (削除)

第十一條 遞信大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ遞信大臣之ヲ命ス

附則

第十二條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●東京郵便電信學校官制

明治二十四年七月 勅令第百五十四號

改正

●明治二十九年七月 勅令第百七十三號
●明治三十二年三月 勅令第百六號

●明治三十三年五月 勅令第百七十九號
●明治三十四年五月 勅令第百四號

●明治三十五年三月 勅令第百十九號

朕東京郵便電信學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京郵便電信學校官制

第一條 東京郵便電信學校ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便電信事業上須要ノ學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條 東京郵便電信學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長
- 幹事
- 教授
- 助教
- 書記

第三條 校長ハ一人奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理ス

第四條 幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス校長ノ監督ヲ受ケ庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 教授ハ奏任トシ專任十人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トシ專任十人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職掌ヲ助ク

第七條 書記ハ判任トシ十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

附則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

●第九節 定員外

● 遞信省部内ノ官吏ニシテ陸軍戰時特設ノ職務ニ従事スル

者定員外ト爲スノ件

明治二十七年十月
勅令第百八十三號

朕遞信省部内ノ官吏ニシテ陸軍戰時特設ノ職務ニ従事スル者ヲ定員外ト爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省部内ノ官吏ニシテ本官ノ儘陸軍戰時特設ノ職務ニ従事スル者ハ本屬官廳ノ必要ニ應シ之ヲ定員外トシ其ノ補缺ヲ爲スコトヲ得

第十四章

會計檢查院

現行法規集第一篇第十四章目錄

○第一篇 官制處務服務

○第十四章 會計檢查院

●第一節 院法

●會計檢查院法……………一

●第二節 事務章程

●會計檢查院事務章程……………二

●會計檢查院各部課管理事務……………三

●第三節 屬、技手

●會計檢查院屬定員……………四

●會計檢查院ニ速記技手ヲ置クノ件……………五

ヲル、コトナシ

會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼テ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四 検査事務ノ規程計算法明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一 總決算

二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官廳ト提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽買讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ遵フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其廳ニ委託スルコトヲ得但其検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算法明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辨明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會フ爲サシムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラヌト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證憑書類ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得
出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

● 第二節 事務章程

● 會計検査院事務章程

明治三十二年十二月
勅令第四百五十七號

朕會計検査院事務章程ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計検査院事務章程

第一條 會計検査院ニ第一部第二部第三部ヲ設ケ各部ニ課ヲ置キ検査ノ事務ヲ分掌セシム

第二條 會計検査院ニ院長官房ヲ置ク

第三條 會計検査院ノ會議ハ會計検査官ヲ以テ組織ス

總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第四條 總會議ハ會計検査官現員ノ三分ノ二以上部會議ハ其ノ部ノ會計検査官現員ノ半數以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

出席會計検査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ總會議ニ於テハ三名部會議ニ於テハ一名ヲ限リ検査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得

第五條 總會議及部會議ハ會計検査官、委員又ハ検査官補ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第六條 會計検査官總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要スル事件ニ付議案ヲ提出セムトスルトキハ其ノ案ヲ具ヘ理由ヲ附シ總會議ノ議決ヲ要スルモノハ院長ニ部會議ノ議決ヲ要スルモノハ部長ニ之ヲ提出スル

委員ヲ設ケタル場合ニ於テ其ノ委員ヨリ提出スル議案ニ付テ亦同シ

第七條 會計検査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ検査シ又ハ其ノ檢定若ハ判決ニ與ルコトヲ得ス

第八條 院長ハ所部ノ職員ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ自ら

之ヲ行フ

第九條 院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部職員ノ彼位彼勤ヲ上奏シ又ハ増俸賞與ヲ行フ

第十條 院長ハ會計検査院全般ニ關スル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理セシムル爲メ會計検査院高等官中ヨリ委員ヲ設クルコトヲ得

第十一條 左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

一 各部ノ分課ヲ定ムルコト

二 各部課主管ノ事務及職員ノ配置ヲ定ムルコト

三 各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノヲ處分スルコト

四 検査官補ニ總會議出席ヲ命スルコト

五 所部ノ職員ニ出張ヲ命スルコト

六 議事ニ關シ細則ヲ定ムルコト

七 部會議ノ議決スヘキ事項ヲ定ムルコト

八 行務監督規程及其ノ他ノ行政事務ニ關スル諸規程ヲ定ムルコト

第十二條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニ付主任部長及検査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ

總會議又ハ部會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限リ院長ハ文章ノ訂正ヲ爲スコトヲ得

第十三條 院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スヘシ

再議ノ議決ニ對シテハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

院長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ其ノ議決書ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ總會議ニ付スヘシ

第十四條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十五條 左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

一 其ノ名ヲ以テ審理書ヲ發スルコト

二 検査官補ニ部會議出席ヲ命スルコト

三 部員ヲシテ其ノ部主管ノ事務ニ付一時相互ニ補助セシムルコト

四 部員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告スルコト

第十六條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ヲ審査シ其ノ總會議若ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノ又ハ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ處分スヘシ

其ノ部會議ニ付シタルモノハ總テ之ヲ院長ニ提出スヘシ

第十七條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニ付主任検査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

部會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限リ部長ハ文章ヲ訂正スルコトヲ得

第十八條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第十九條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 検査官ハ各課ノ長トナリ課務ヲ掌理ス

第二十一條 検査官ハ検査ノ執行ニ因リ檢定、判決、審理等ニ關スル文書ヲ調製シ之ヲ部長ニ提出ス

第二十二條 検査官補ハ各課ニ分屬シ課長ヲ助ケ又ハ院長官房若ハ各部ニ分屬シ審議立案ヲ掌ル

第二十三條 検査官補ハ検査ノ事項ニ關シ意見アル場合ニ於テ總會議又ハ部會議ニ議案ヲ提出セムトスルトキハ院長又ハ當該部長ノ承認ヲ經ヘシ

第二十四條 書記官ハ院長官房ニ屬シ庶務ヲ掌ル

第二十五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ検査ノ事務又ハ庶務ニ從事ス

速記技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ速記ノ事務ニ從事ス

第二十六條 會計検査院ハ行務年度ヲ定メ検査ノ事務ヲ執行ス

第二十七條 會計検査院ハ検査ノ事項ニ付當該官吏ニ對シテハ審理書ヲ發シ國務大臣ニ對シテハ質問書又ハ注意書ヲ發スルコトヲ得

第二十八條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算正當ナリト判決シタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付シ正當ナラヌト判決シタルトキハ本屬長官ニ對シテ處分要求書ヲ發スヘシ

會計検査院ハ出納官吏其ノ負擔スヘキ缺損金ノ辨償ヲ終ヘタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付スヘシ

第二十九條 會計検査院ハ國ノ代表者ニ於テ出納官吏ニ對スル公訴附帶ノ私訴ヲ提起シタル事項ニ關シテハ之ニ對スル通常又ハ特別裁判所ノ判決執行ノ結果ニ依リ其ノ検査判決ヲ行フヘシ

第三十條 會計検査院ハ第二十八條ノ處分要求書ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラヌト認ムルトキハ其ノ事由ヲ検査成績書ニ載セテ上奏スヘシ

第三十一條 會計検査院ハ出納官吏ニ對シ再審ヲ行フ場合ニ於テハ前ニ該件ノ検査ヲ擔當セザリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ

第三十二條 會計検査院ハ出納官吏ノ請求ニ因リ再審ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ本屬長官ニ通知スヘシ

會計検査院ハ職權ヲ以テ再審ヲ行フ場合ニ於テハ本屬長官ヲ經由シテ其ノ旨ヲ當該出納官吏ニ通知スヘシ

第三十三條 會計検査院ハ左ノ場合ニ於テ本屬長官ヲシテ直ニ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

一 出納官吏其ノ保管スル現金ヲ亡失シタルトキ

二 各省大臣出納官吏ニ對シ辨償ヲ命シタルトキ

三 出納官吏ニ對スル公訴ニ附帶シテ國ノ代表者私訴ヲ提起シタルトキ

第三十四條 會計検査院ハ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期又ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

●會計検査院各部課管理事務

明治三十三年四月六日官報
(改正年月略之)

會計検査院各部課管理事務

第一部

第一課 國庫 國債 恩賞諸祿

第二課 陸軍本省 參謀本部 陸地測量部 教育總監部 陸軍監督部 軍馬補充部 臺灣陸軍補給廠

陸軍衛生材料廠 陸軍糧秣廠 陸軍被服廠 近衛第一第二第三第八第九、各師團及臺灣ニ屬

スル陸軍費 憲兵司令部 陸軍諸學校

第三課 陸軍兵器監部 砲兵工廠 築城部 陸軍兵器廠 千住製絨所 第四第五第六第七第十第十一

第十二各師團

第四課 海軍省

第二部

第一課 大藏省(國債及恩賞諸祿ヲ除ク) 外務省 警視廳 葉煙草專賣ニ關スル收支

第二課 內務省 北海道廳

第三課 租稅 內國稅徵收費 沖繩縣土地整理費

第四課 農商務省府縣

第三部

第一課 遞信省(官設鐵道)ヲ除ク

第二課 司法省(各集治監費 各監獄費) 文部省

第三課 官設鐵道

第四課 臺灣歲入歲出

◎第三節 屬技手

●會計検査院屬定員ノ件 明治三十三年三月
勅令第三百三十七號

改正 明治三十五年三月
勅令第三百二十二號

朕明治三十一年勅令第三百一號ノ改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治三十一年勅令第三百一號左ノ通改正ス
會計検査院屬ハ百六十八人ヲ以テ定員トス

● 會計検査院ニ速記技手ヲ置クノ件

川治三十年十月
勅令第三百五十九號

朕會計検査院ニ速記技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
會計検査院ニ屬定員以内ニ於テ速記技手二人ヲ置ク

第拾五章

行政裁判所

現行法規集第一篇第十五章目錄

○第一篇 官制處務

◎第十五章 行政裁判所

●第一節 行政裁判法

●行政裁判法……………一

●第二節 行政裁判所

●行政裁判所處務規程……………二

●行政裁判法ニ依ル組織及事務分配ノ件……………三

●行政裁判所評定官及書記員數並ニ職務ノ件……………四